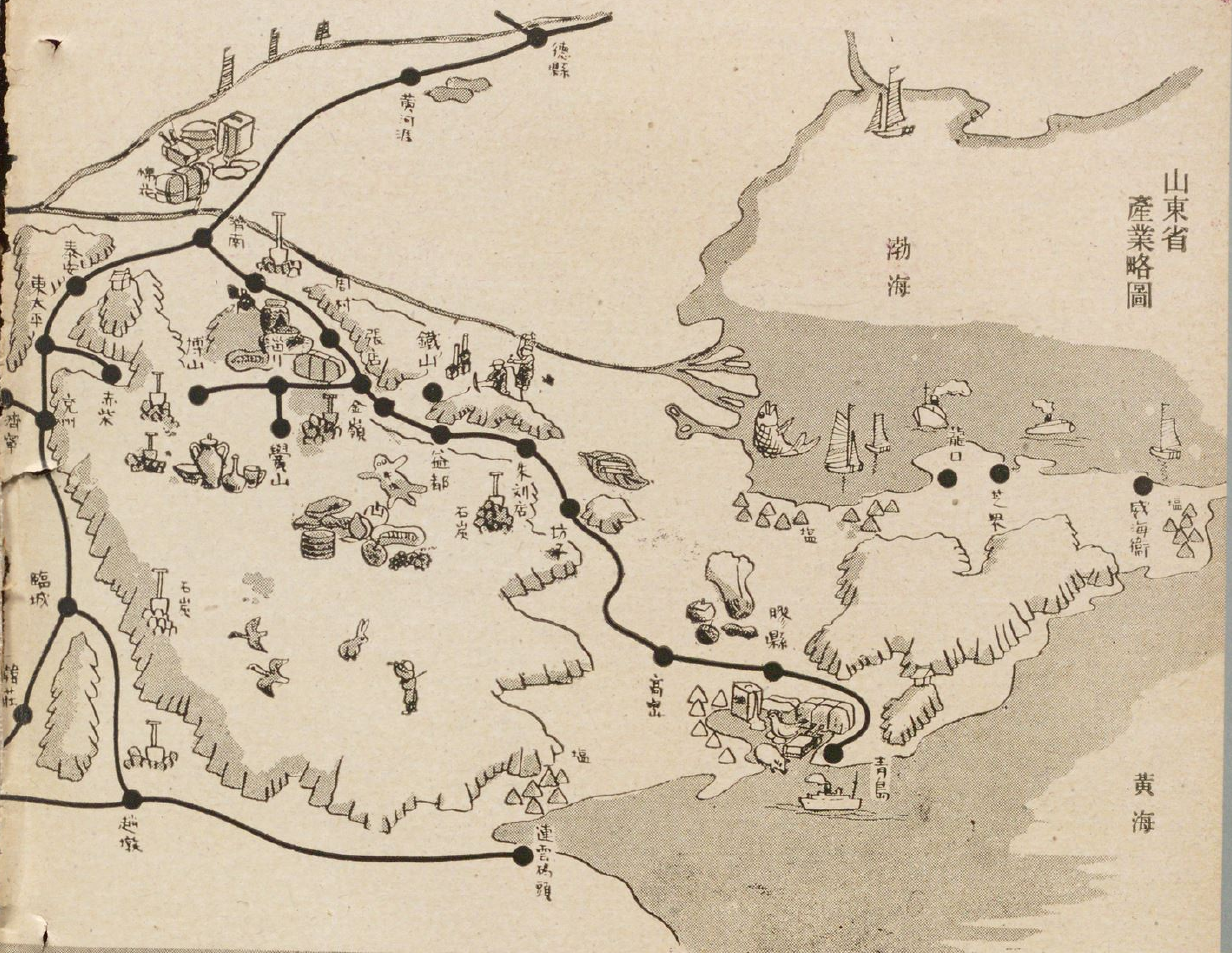
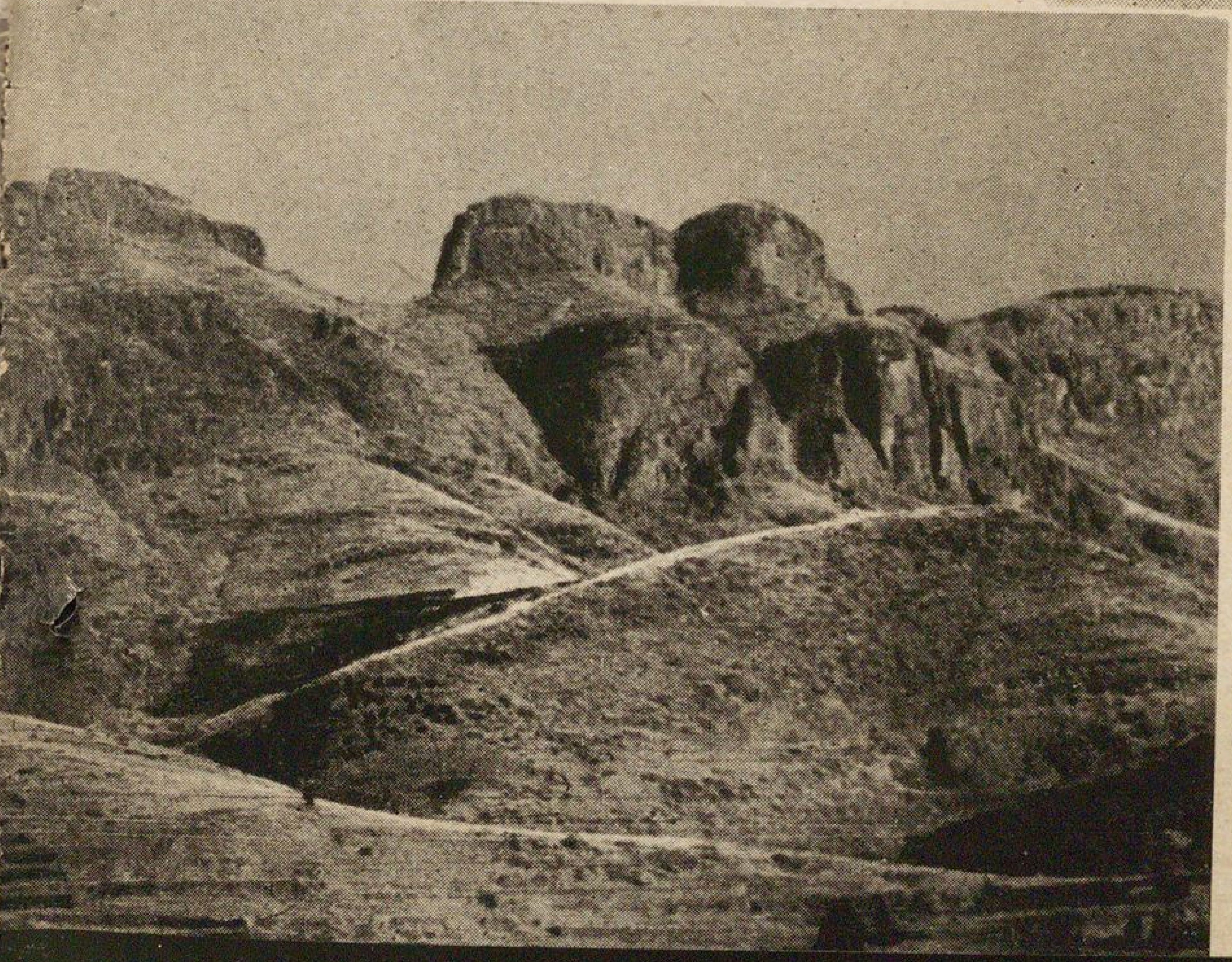
北支



現地編輯

12 4





山東西部地方の山の相貌、曼頭頁岩――支那最古の水成岩震旦系下部と言はれる。津浦線車窓より寫す

山東省

山東の地勢はその大半が山岳又は丘陵地帶で、軀幹部の中核は三角形の山塊になつてゐてその西北角に近い處に支那第一の靈峯泰山が聳える、そしてこの三角山塊の北と西は黃河の埋積した渺茫たる沃野で、卽ち華北平原の一部である。これに對し東に突出する半島部は全域殆ど低い丘陵である

氣候は、半島部は比較的に海洋の影響が强く、殊に南岸は寒暑共甚しからず春秋の濕氣も相當である。內陸部の濟南以西は大陸的で寒暑の差甚だしく、特に夏季の暑熱は酷しいが冬季は風が穩かであるため身に苦痛は感じない。雨量は大體全省平均してゐて、瀨戶內海地方の半分くらゐである

前歐洲大戰に際し、我が國は獨逸の租借地たりし膠州灣を攻略し、その諸施設を經營することゝなり大正三年十一月軍政を布き銳意經營に當り、靑島のみならず全省に亙り產業、交通等各部門の發達を促進したのであるが、大正十一年の華府會議及び北京に於ける山東細目協定により同年十二月十日獨逸の租借地は支那に還附したのである

玆に昭和十二年支那事變起り、更にこの度の大東亞戰爭に至り、山東の存在意義は、一層重きを加へて來たのである。その豐富なる地下資源と農產資源及び三千萬餘の勤勉なる人的資源は、擧げて日本を盟主とする大東亞の新秩序確立のために動員されることになつたのである





牛島部北方海岸景觀、鹽田



山東省 二



山東西部の烟草畠

微山湖と大運河、大微山湖は今年は一滴の水もなく、一望の草原になつた。



海の幸

山東の海岸線は延長約三百六十浬に達し屈曲多く多數の海灣を擁してゐる。從つて內海と外海と兩方の海況を併存し、內海は魚介の蕃殖に適し、外海には十數個の島嶼が散在しその間有名な漁場が幾つもあつて漁利の天惠に浴してゐる

沿海は陸地を距る五十浬迄は二十五尋の遠淺で、黃海の中央部でも五十尋に過ぎず、從て冬期は溫帶魚族の滯留に適しないが、春から秋にかけては進退する水塊に從つて產卵、求餌の爲沿岸に殺到する魚族群甚だ多く、鯛、鰆、鱝、鱈、鱸、太刀魚など豐富である





寫眞右、萊州の海岸、干してある魚は鱶である、これをむしつて魚を釣る餌にするのである。
左は北方海岸地方に於ける魚獲

濟南

濟南は山東中部の都市、大商業地で、山東全省は勿論、河南の北部、江蘇の北部の産物は悉くこの地に集中し、膠濟鐵道で沿線各地に向けられ、又は津浦線で揚子江沿岸或は北は天津、北京地方に運ばれ、又運河によつて河南に送られるなど、百貨輻輳して、市況活氣を呈し、工業方面では製紙、晒布、織物、石鹼、緞通、製紙工場等々、此の地方に於ける工業の中心地である光緒二十八年（西紀一九〇二）支那自ら開放した商埠地は城の西に隣接してゐる。民國十七年濟南事件に際しては我が軍はこれを占領した

濟南の名勝古蹟は少くない。なかでも大明湖、歷山、千佛寺等は有名である大明湖の歷下亭は杜甫（唐代の詩人）が宴詠したところと傳へられ、景觀愛すべきである。歷山は縣城の南方五支里、舜がまだ一農夫であつた頃耕作をなした所と傳へられる。歷山の中腹に千佛寺あり、隋代の石佛を存する。趵突泉は城內南關にあり、所謂濟南七十二泉の王で、湧出する水は淸冽そのものである

新市街



大明湖の蓮



青島



青島宰畜公司、今では青島名所の一つである。年十萬頭近く屠られる

青島は獨逸の進出以來の街で、曾ては一寒村に過ぎなかつた。即ち明代に漸く倭寇防禦のため水師營が置かれ、淸代には乾隆時代に膠州稅關分局が設けられて膠州の分港たる地位を得、更に光緒十七年（西紀一八九一）には鎭守軍署が創置されて北海艦隊根據地（威海衞）の前衞となつた



然るに光緒二十三年曹州に於ける獨逸人宣教師殺害事件を口實として、獨逸軍此の地を占領、翌年租借を强行してその東洋艦隊の根據地として以來、大發展をした。租借後獨逸は都市計畫地の一部を支那街に指定して支那人を移住せしめると共に舊村落を總て燒却、その趾に植樹して着々と組織的な市街

馬車（マアチョ）に乘つ

建設の歩を進め、十數年の後には獨逸風の都市として、その面目を一新するに至つた。同時に港灣計畫を建てゝ大貿易港としての設備を完成し、その發展を策した

他方背後地の開發を進め、山東省內の鐵道、鑛山等の利權を獲得して、產業の開發を着々と進めたので芝罘を壓倒して山東の中心市場となつた。やがて上海、香港と繁榮を競はんとする有樣となつたのであるが、大正三年八月二十三日所謂日獨開戰となつて、同年十一月七日我軍の占領するところとなり爾來我が國の經營に委ねられた

而して良き成績を擧げたが、民國十一年（西紀一九二二）ワシントン會議の結果、遂に民國に還附せられるに至つた、還附を受けた支那政府は青島特別市制を施行し、後青島市と改めた

邦人の進出には變遷はあつたが支那事變に於ける治安恢復を將來に對する決定的段階として發展に拍車をかけた。工場も紡績を首め數多あり、北支に於ける日本人發展の一大據點となつてゐる。邦人の人口は事變前一萬五千、現在三萬數千を算してゐる。總人口約七十二萬

なほ大東亞戰爭下及びその後の北支の海口としての重要性に就いては喋々の要なかるべく、將來の一大發展を約束されてゐる

小港風景



芝罘



「船が入つた、さあゆけ」客ひき達



女學生とレース賣り



颯爽と自轉車で通學する女學生

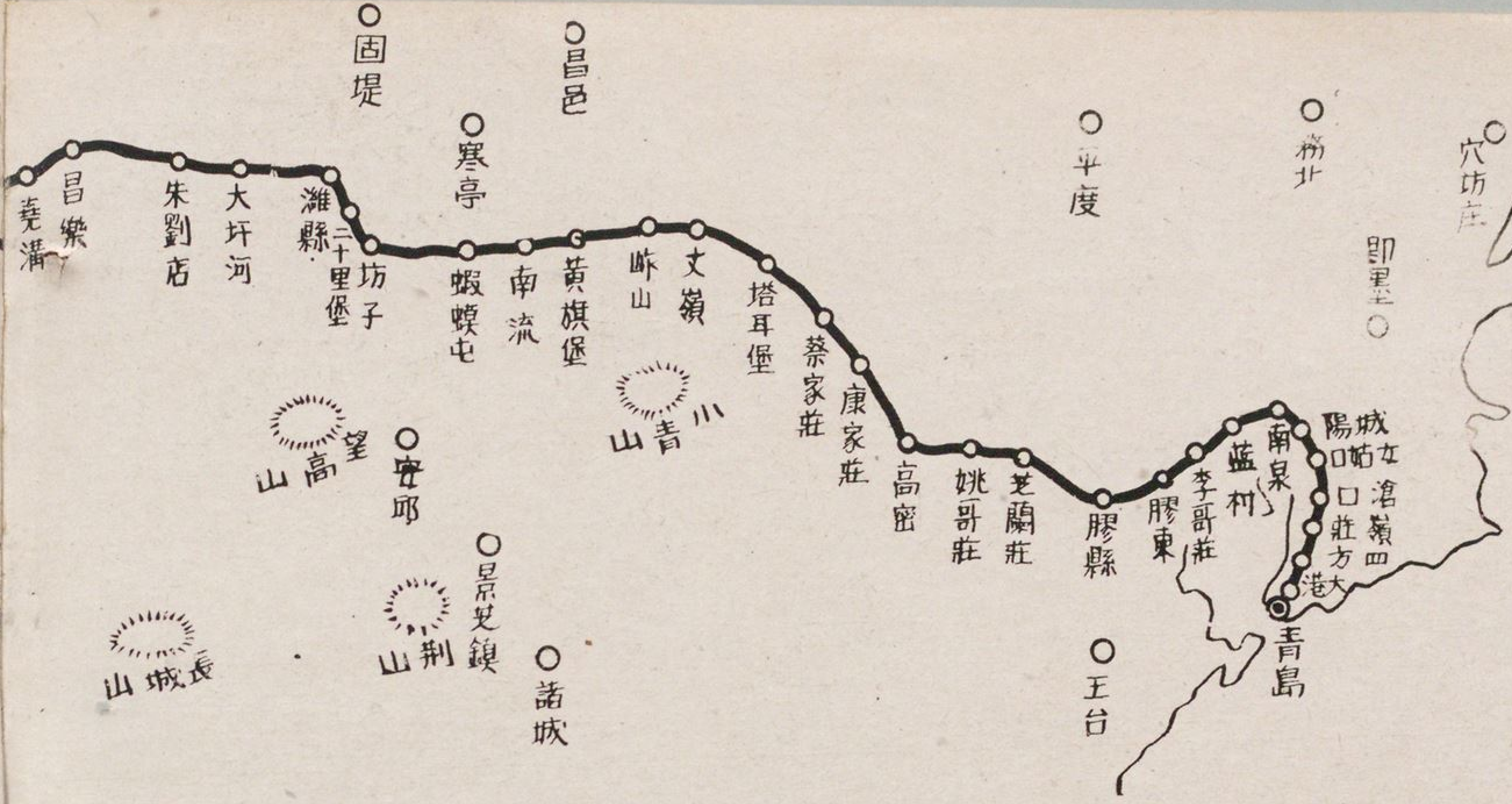
芝罘は山東半島北岸の開港場で、別名は煙臺縣城である。明時代に狼煙臺を設け、海賊、倭寇の來襲の警戒に當つた縁で此の名を有する

清咸豐八年（西紀一八五八）の天津條約によつて同治元年（西紀一八六二）に開港され、外國貿易に伴つて發展したのであるが、背後地狹く、青島港の躍進に壓倒されて次第に衰微した

豆粕、紙卷煙草、絹紬、柞蠶絲製造、葡萄酒釀造の主なる工業をはじめ、レース、ヘヤネット等の大小手工業が盛んである

本港の貿易は、輸出より輸入が多く、年々入超を示してゐる。豆粕等は日本にも輸出してゐる

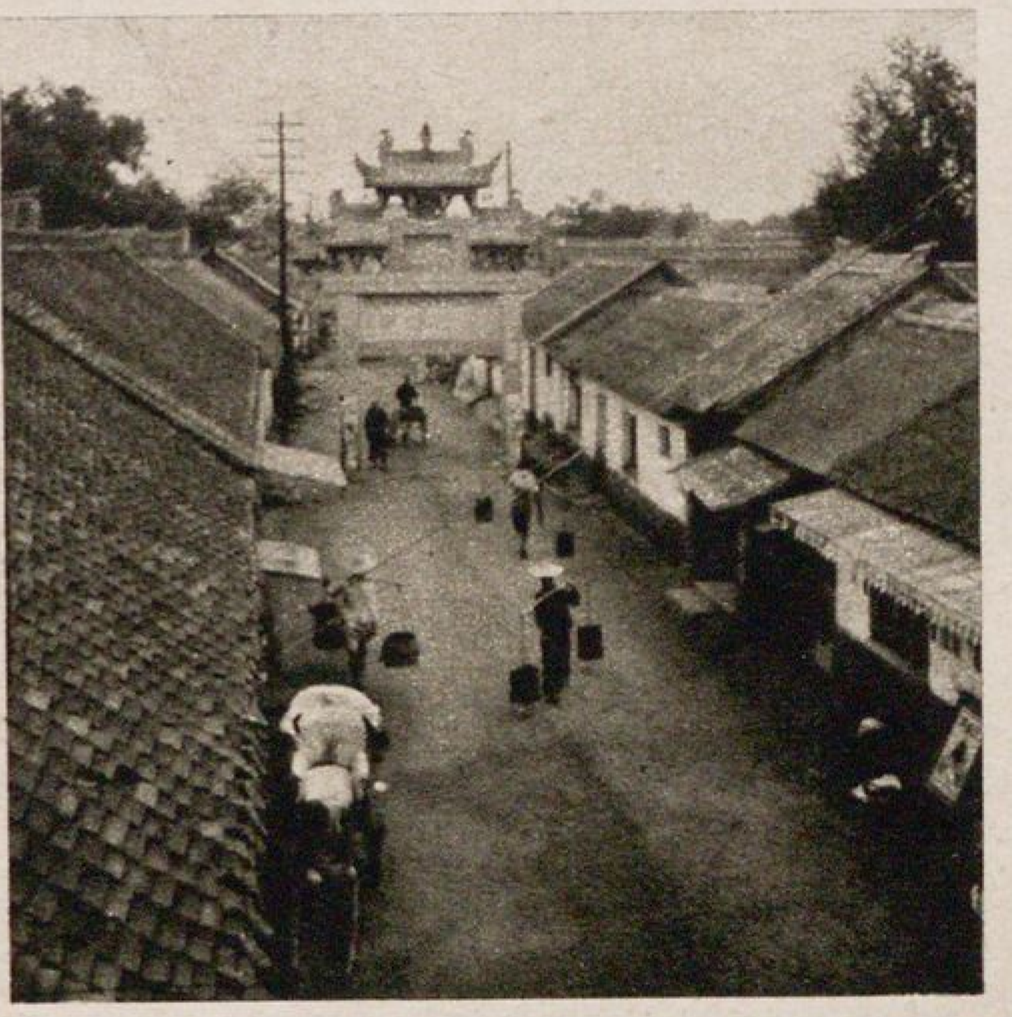
なほこの地は山東華工（華人勞働者）の門戸として有名である



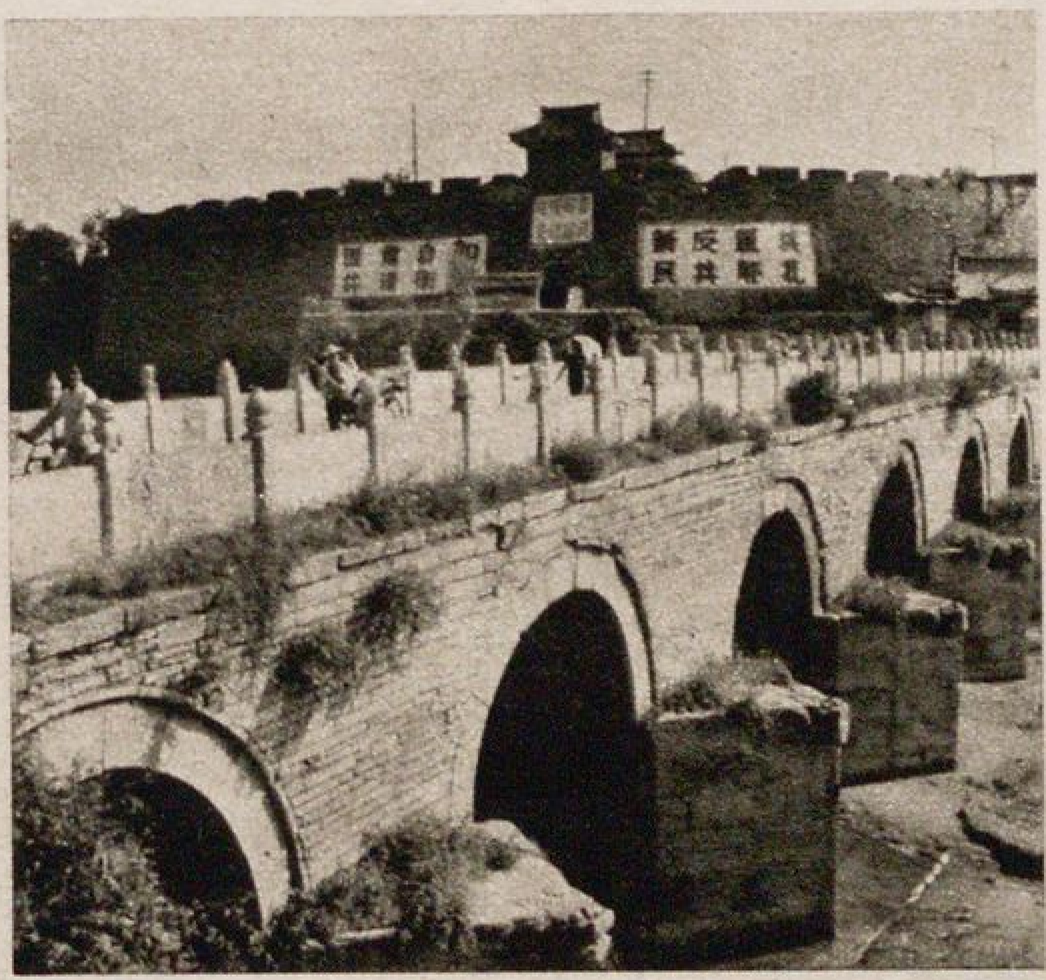
膠濟鐵道

獨逸が支那との膠州條約締結後、獨亞銀行を中心としたシンヂケートによつて山東鐵道會社を設立し、獨逸の山東に於ける植民政策の中樞となし、一八九九年九月青島方面から鐵道を起工したのは、この鐵道の前身、山東鐵道の最初である。その翌年義和團の變に遇つて工事に頓挫を來したが、一九〇一年四月、青島、膠州間を開通し、翌年六月には全線の半程である濰縣に達し一九〇四年六月、遂に濟南にまで延びて本線延長四百粁を完成し、同時に博山枝線四十粁をも竣成したのであつたこの建設費五、二九〇萬馬克を要したと稱せられる

諸材料は總て獨逸製の鋼鐵が用ひられ

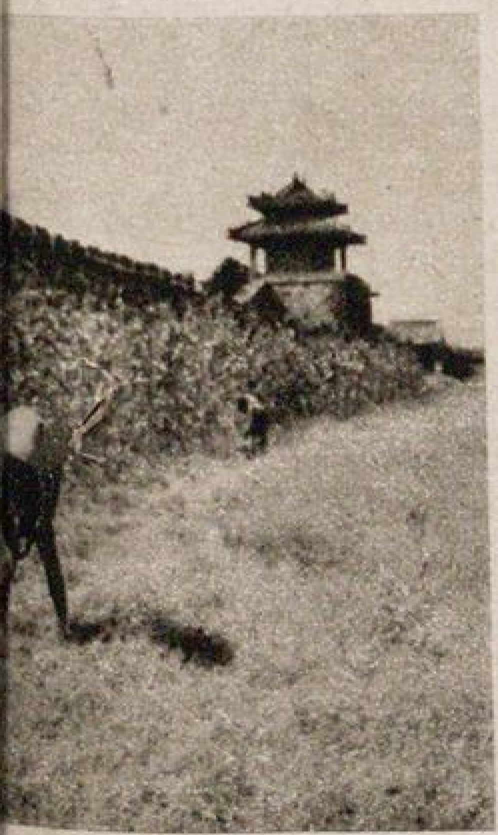


高密城內、驛の西南十町餘、古來多くの文人、學者を出したところ、住民は質朴敦厚、家廟を重んずる風が深い

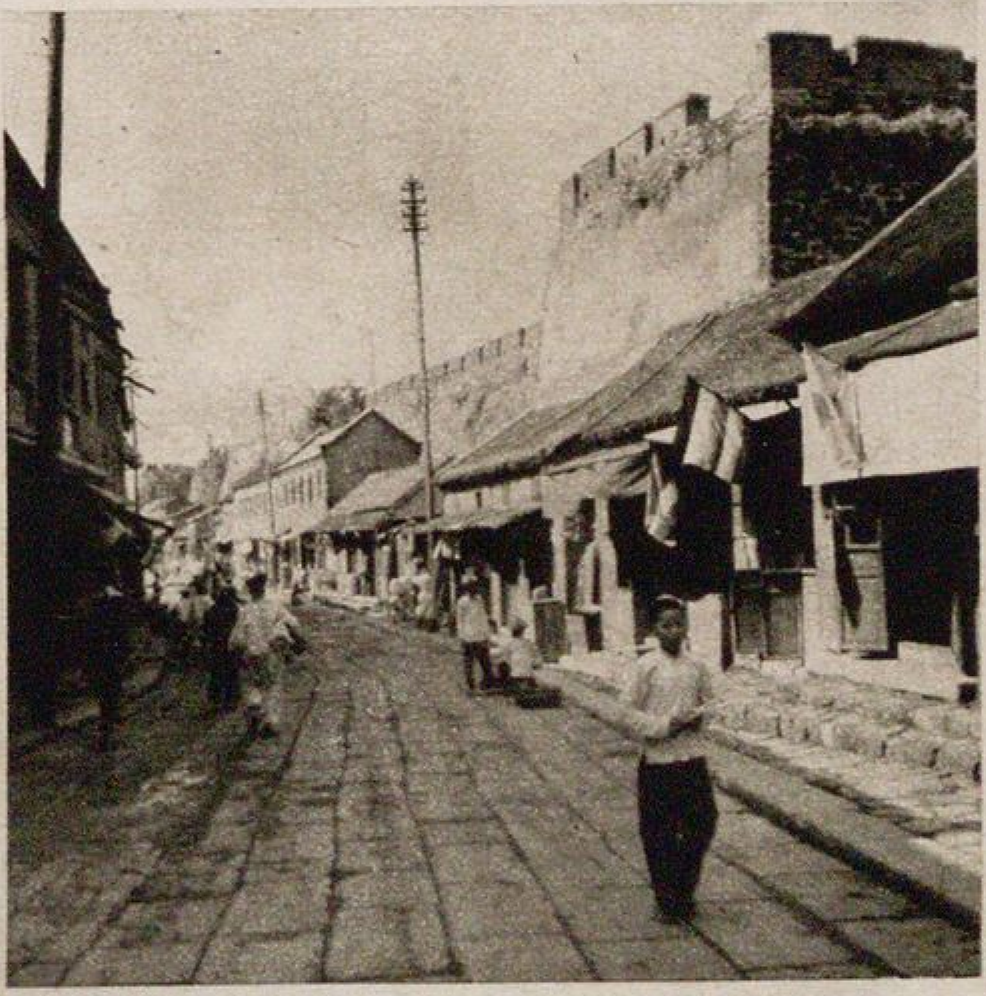


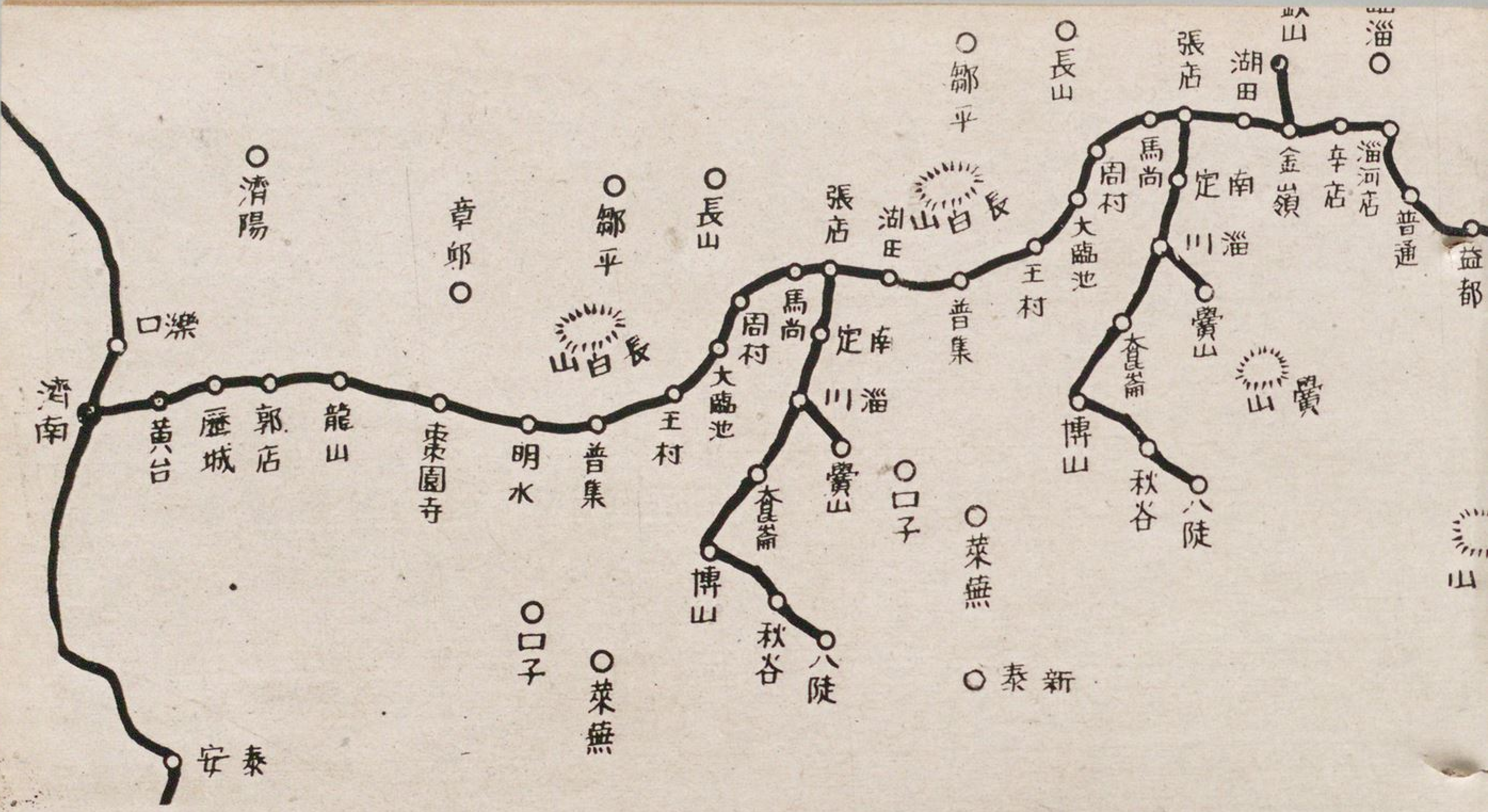
益都（青州）、驛より南十五町、橋を渡つて城內に入る。東關には絹絲商が多い、またこの附近は果實の產地で、胡桃乾柿、山楂、杏などが各地に向けられる

滿洲城、滿洲八旗の居城であつた、清の始祖愛親覺羅の覇業成り天下統一されたとき漢民族と別天地を劃して駐屯せしめたその一つである



濰縣本城、驛より北へ十五町、交通の要衝であり山東中部商業の中心地であゐ。また手工業の盛なるを以て著はれてゐる。城の東門外に石造の獅子あり、洪水來るときは必ず怒吼するといふ



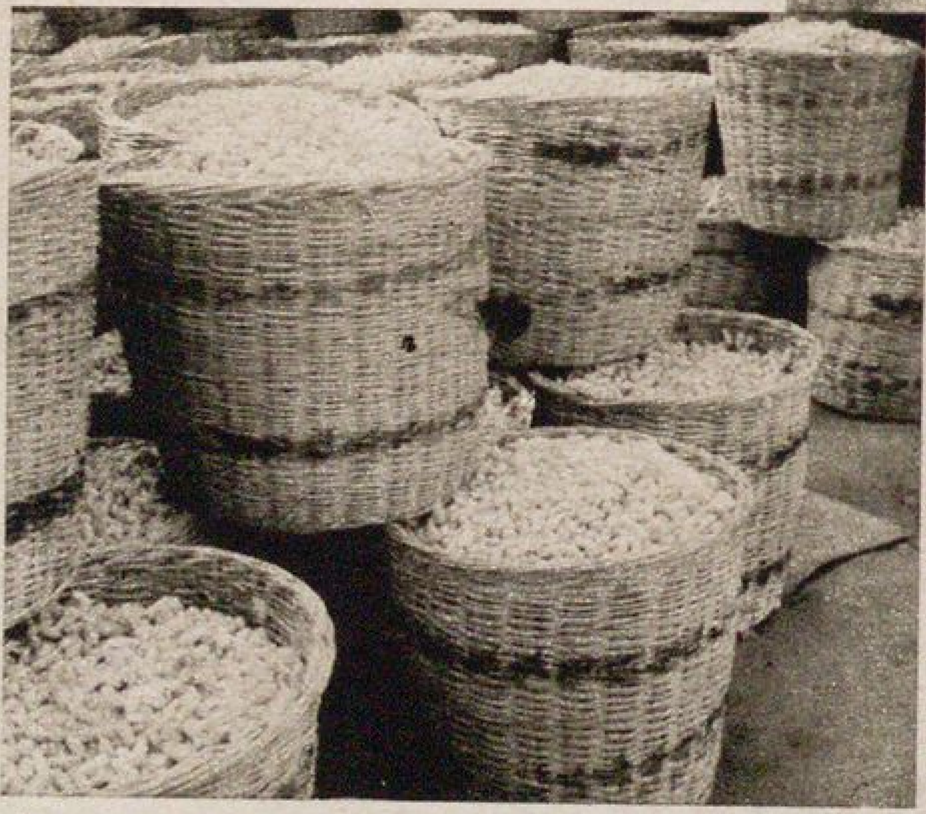


軌幅は（四呎八吋半の）廣軌の單線を敷き、當時枕木は鋼鐵を用ひてゐたが今は漸次木材に取換へられてゐるかくして獨逸によつて經營さるゝこと十年、一九一四年に至り歐洲大戰によつてわが軍の押收するところとなり、爾來大正十一年十二月まで約八ケ年間日本の管理經營に委せられたが、その後ワシントン會議により、大正十二年一月日本より支那政府に引渡されたものである

然るに昭和十二年七月支那事變勃發し、同十四年四月華北交通株式會社創立せらるゝや全華北鐵道の一環としてその綜合的運營に委ねることになつた青島から濟南に至る沿線の地は、山東の平野を横切り、峻嶺の難所なく、一の隧道もないが、大沽、濰、瀰などの諸川は夏期增水して交通を妨害することがある。線路は青島から膠州まで大曲線を畫いて膠州灣を迂回し、西北に漸次上り、高密、丈嶺を經て山崗地に入り紆餘曲折して濰縣に達してゐる。濰縣以西は南に山地を有する黄河河口の大平野で線路は山麓を走つてゐる。王村附近は泰山の支脈で海拔百五十米本線の最高地點である。博山枝線は張店より孝婦河に沿うて河谷を上る都邑は殆んど鐵路から稍距つてゐる。この線の初秋の旅は殊に佳い



膠濟沿線至るところに柿の木をみる。この柿は乾柿として朝鮮方面にも向けられ朝鮮に出稼いでゐる山東人は乾柿を食べて、はるか故郷を偲ぶといふ



黄繭、これから絹紬をつくる。張店に大小の工場あり





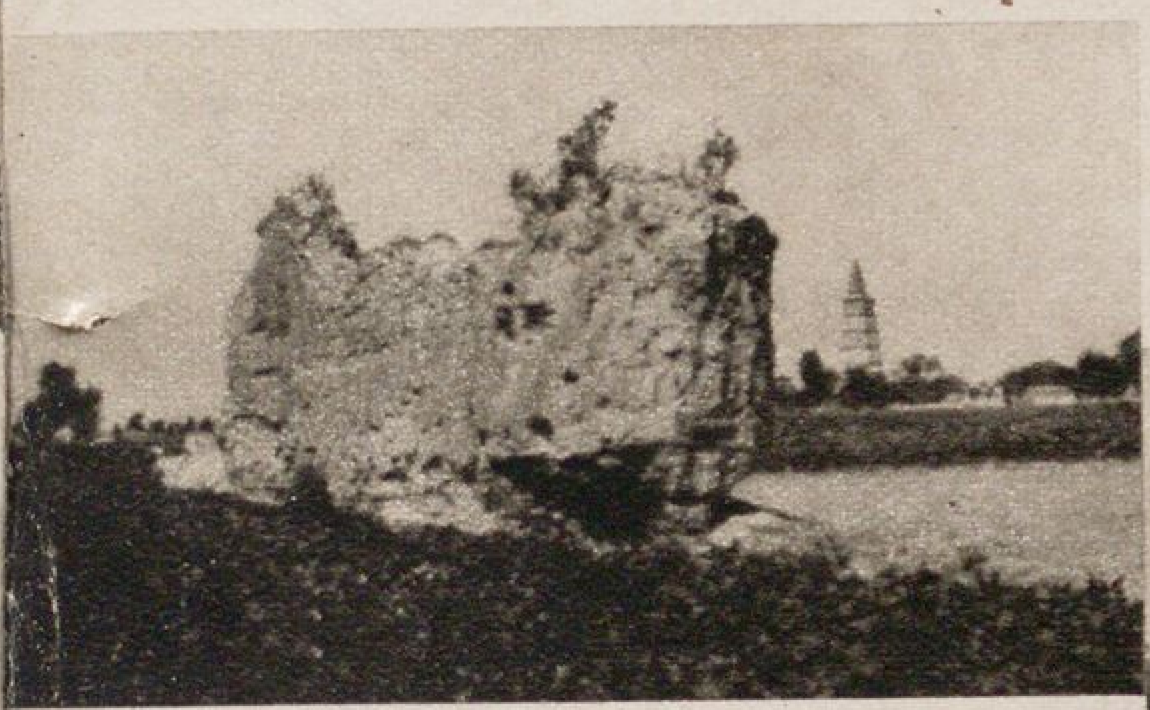
博山、工業地であり、殊に博山陶器は有名である

泰安驛から泰山を望む



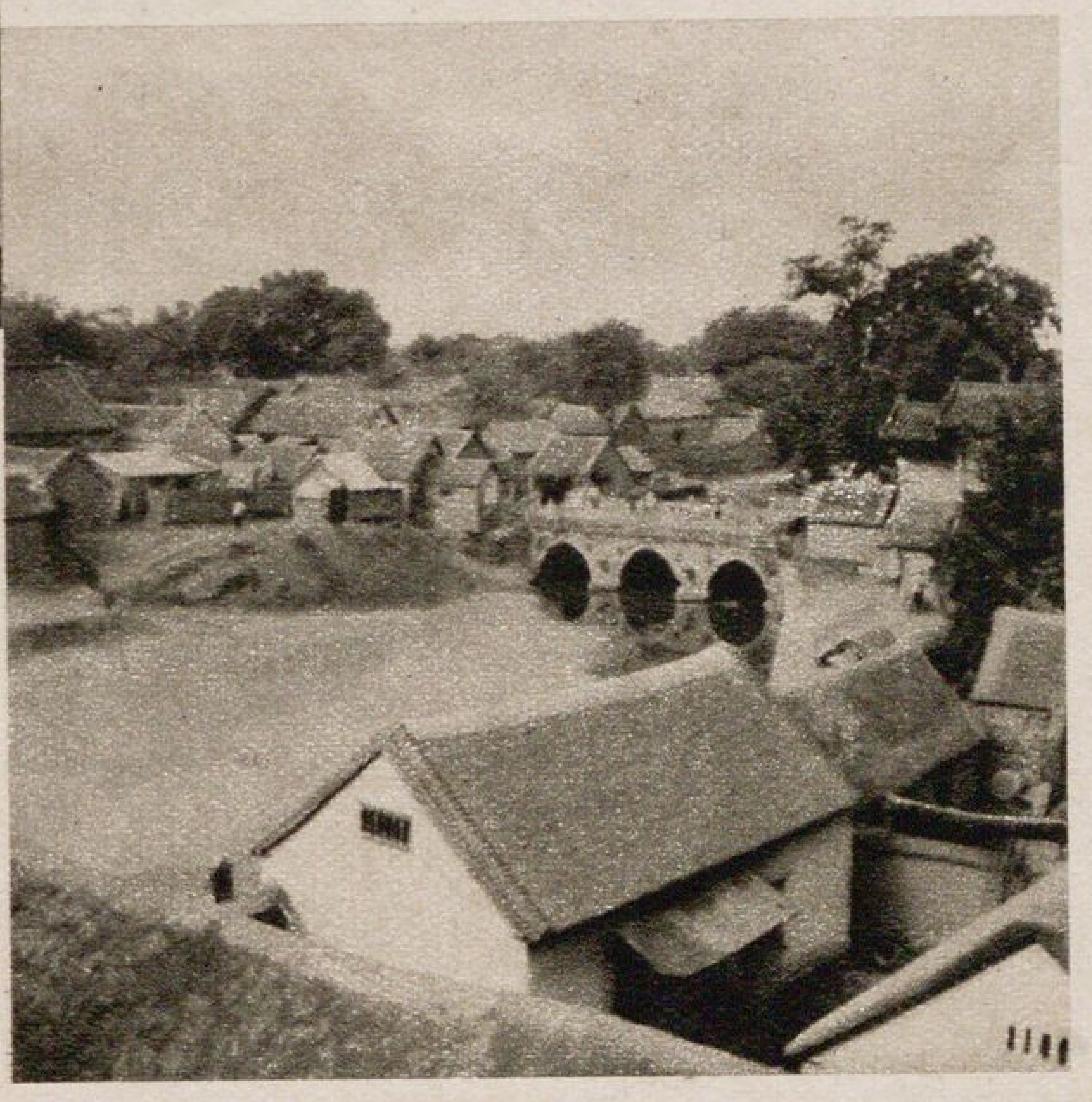


徳縣城

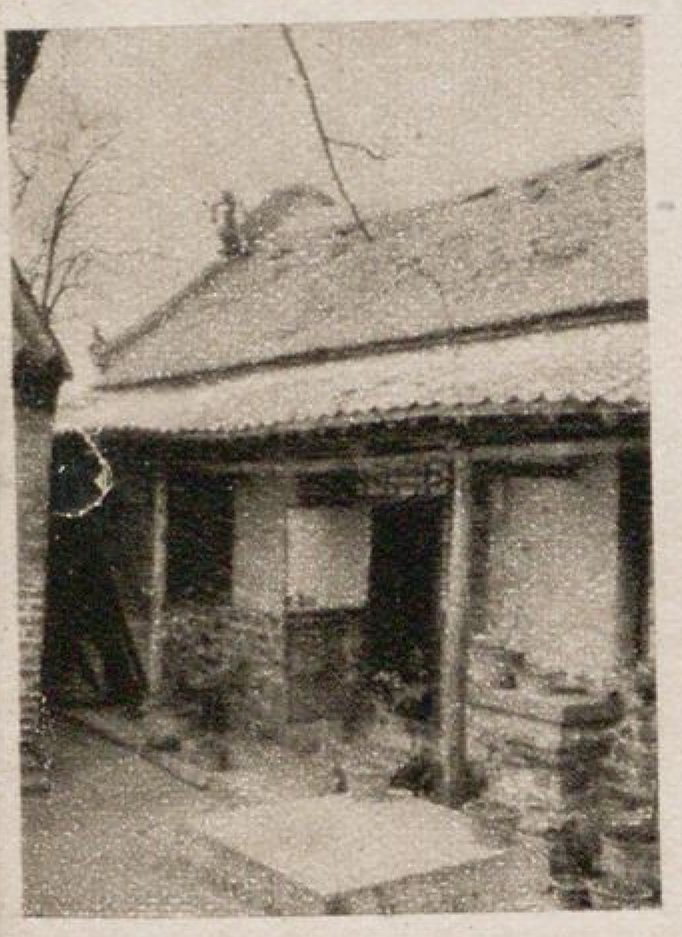


兗州、周代の皇居の壁の跡、兗州城の東北にあり

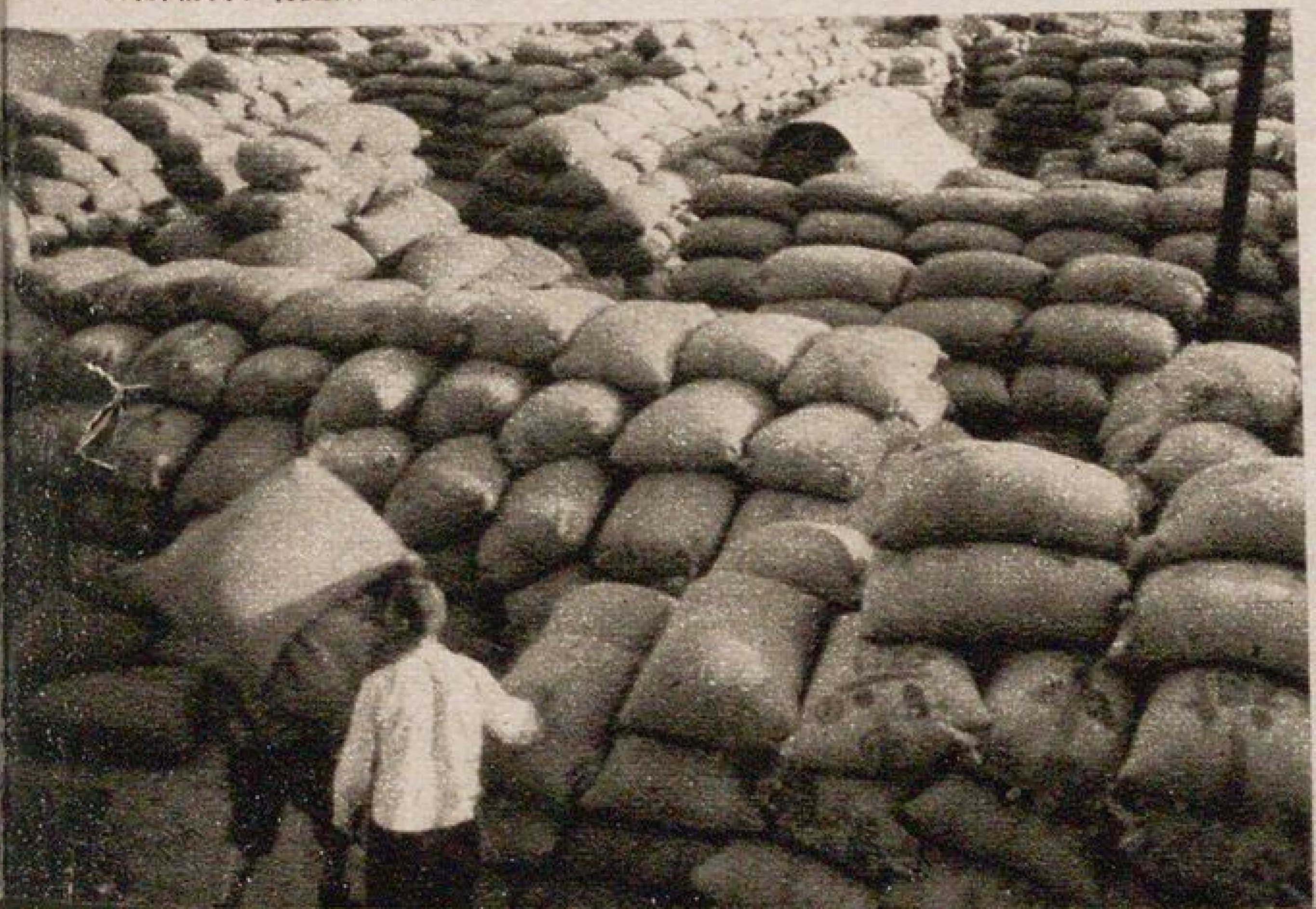
鄒城の利信橋、流れば小沙河、此の河は孟子の生地より源を發するといふ

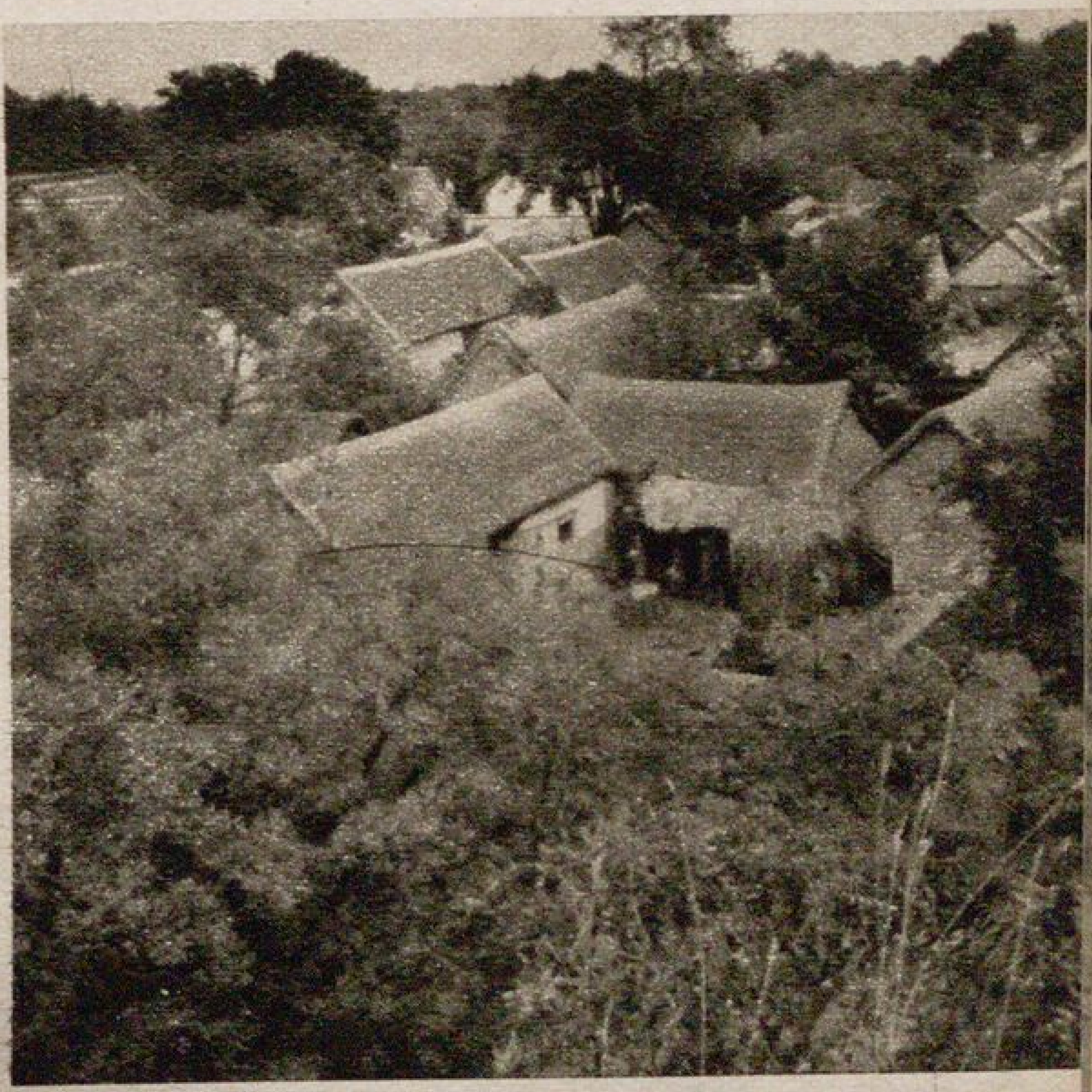


津浦沿線の或る民家の屋根に藁でつくつた鬼が居た。これは去年の雨で屋根が壊れたから、今年はもう壊れぬやうに見張りをしてゐるのである



臨城驛構內、特產品の積出し





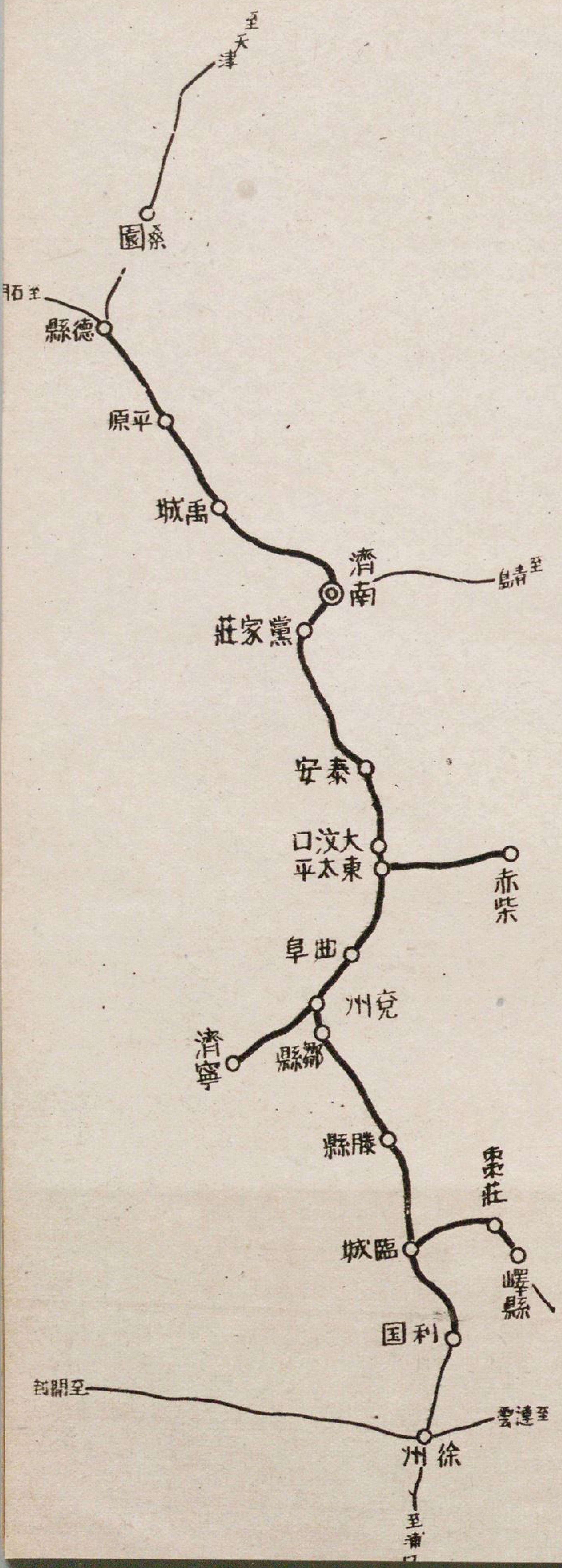

棉花の搬出（德縣）

津浦鐵道沿線

津浦鐵道は天津を起點として山東、安徽の各省を縦貫南下し江蘇省に入り、南京の對岸浦口に接する延長一千余粁に及ぶ北支、中支間の最捷徑路であり天津で京山線に、德縣で石德線に、濟南で膠濟線に、徐州で隴海線に、浦口で揚子江の水運に、それぞれ連絡する政治、經濟、軍事、交通上の重要幹線である

本線は最初在米華僑が獨逸の山東に於ける勢力を掣肘せんがため米國に援助を求めて建設せんとしたものであるが當時米國は恰も米西戰爭終局に際して金融意の如くならない時であつたので英國と共同で之に當らうとした。然るに獨・白・佛三國より、膠濟線及び京漢線に對する脅威となるものとの理由から抗議を提出し此間種々兩者折衝の末、遂に全線を二段に分ち、北段を獨逸、南段を英國が建設するといふ事で妥協し、一八九九年支那側と借款草約を結ぶに至つたが、團匪事變のため正約の締結は不可能となり、其後歐洲大戰の結果獨逸の諸權利は消滅し且つ支那側の利權回收熱勃興のため敷設管理權は支那側に掌握されて終つた

かくて一九〇八年建設は開始されたが工事半ばで、建設費不足で第二次及び臨時借款を起し、一九一二年漸く全線が完成された。以來、事變直前迄支那側の手によつて經營されてゐたが、事變以來華北交通の創業を見、安徽省蚌埠以北を同社が運營してゐる。本線は支那南北經濟の紐帶としてその意義を有するばかりでなく、沿線の豐富な物資を背にして今後愈〻その本來の價値を十二分に發揮するものと期待される





芝罘の或る林檎畠にて

農家

しい夕食がすんで、さてまた一仕事、益都の農家。枝から軒に懸れろば玉蜀黍





農業

山東の農戸數は五、九一八、二八〇戸で總戸數六、六五九、八五八戸に對し八八%九に當り、また農民數は三〇、七七五、〇五六人で四川省に次ぎその總人口比率に於ては全國に完絶する
（民國二十四年申報年鑑による）



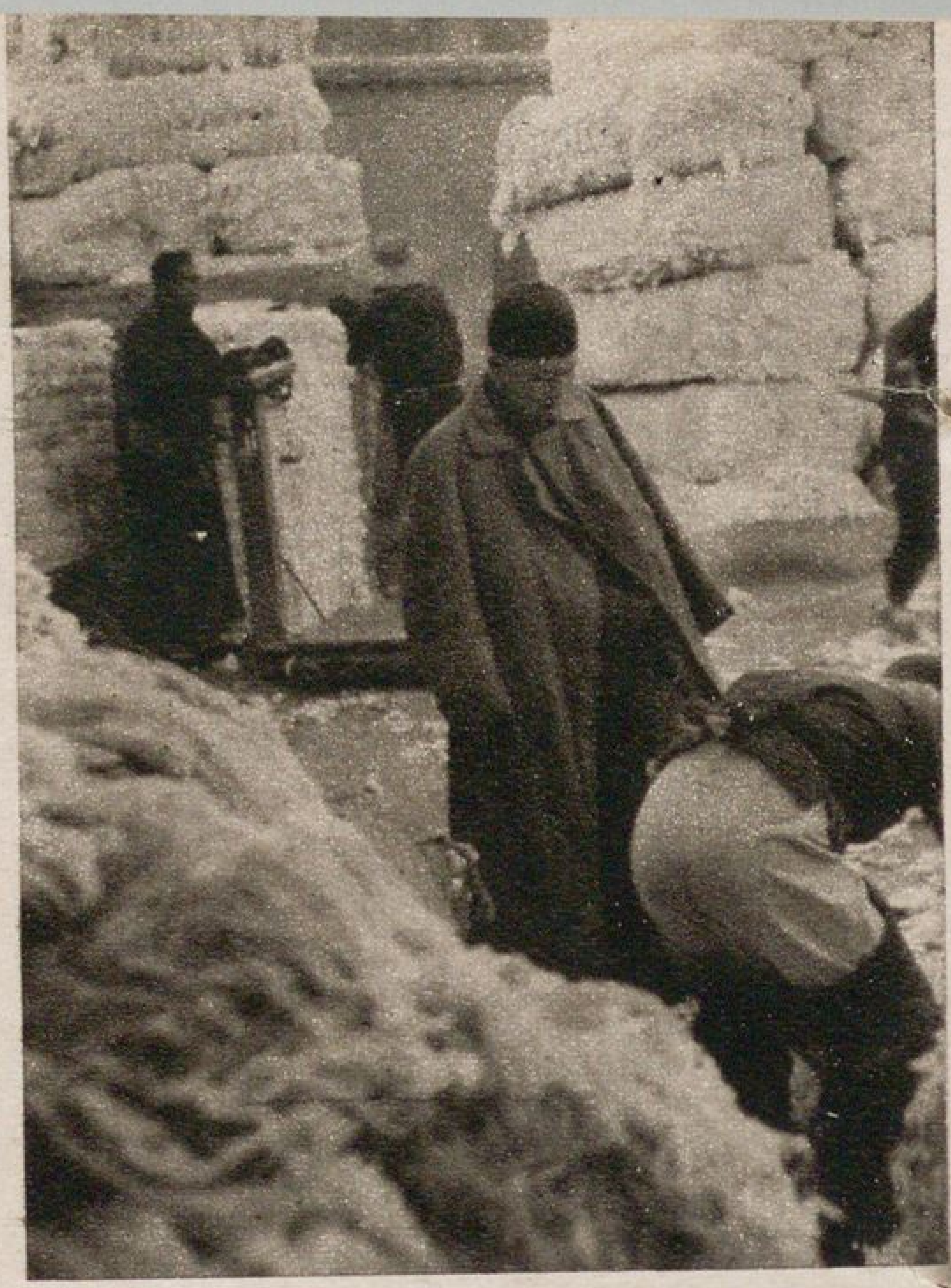
芝罘の果實の市



大豆の收穫（淄河



草の乾燥（益都）



棉花の精選（德縣）

草の採集（益都）



大豆落花生の產額は他省を壓してゐる

棉花黃河下流に形成された沖積土はその栽培に適してゐる。種類は大別して米棉及び在來棉の二種であり、品質印度棉に比して優るとも劣らない

葉煙草も全省中最も多く產し、膠濟鐵道沿線に廣く栽培されてゐる

山東省の氣候風土は果實及び蔬菜類の栽培に適し、梨、李、柿、石榴、蘋果、棗、櫻桃、葱、韮、菠菜、蒜、辣椒、蓮根、芹菜の產額は全國第一位である

工業



陶器の乾燥（博山



青島の或る紡績工場

紡績は青島、濟南を中心とし山東工業の筆頭である。この事變前に於ても北支五省中山東紡績企業投資に匹敵する大工業は他に類例をみない、その九割は邦人によつて經營されてゐたのである。山東紡績は上海を中心とする江蘇省に次ぐ支那第二位の紡績中心地である。原棉の消費量も增大の一途を辿つてゐるが、大部分は省内に於て必要量を賄ふことができるのである

大正五年（日獨戰後）邦人によつて此の地に紡績が芽生え僅々二十年にして今日の驚異的發展をみるに至つた原因は、即ち原料及び燃料の入手に便なること、勞力供給の潤澤、氣候の好適、陸運海運の地の　を得てゐること、消費地近接せること等、あらゆる條件に惠まれてゐたからである

メイド・イン・チヤイナの旗じるしの下に、世界市場を獲得する機會を待つてゐるのである

其他、製粉、麥酒、鷄卵加工、燐寸、織布、絨緞、雜貨、精製鹽、石鹼、皮革、骨粉、製油、絹絲、染料、製紙、煙草、煉瓦、セメント工場は豐潤なる原料に惠まれて必然的な發生と發展を遂げつゝある



↑博山周邊の無數の窯場では、窯も家も壁もやきもので造られてゐる

↓繪つけ



山東の豐富な陶土と燃料は容易に窯業を盛んならしめ、博山は支那有數の陶磁の產地である。その工場の分布は甚だ廣く

五、八陸莊　窯五、罐、甕、酒瓶等を製す

往年の博山陶磁の販路は廣大であつたが、奉天、唐山等產出の精良品に驅逐

工業

二



博山のガラス工場

↓製品



一、北嶺鎭　窯十餘、食器、瓶を製す

二、山頭莊　窯五十餘、碗類、花瓶、酒瓶、帽頭等を製す

三、福山莊　窯三十餘、碗、皿、盤等を製す

四、五龍莊　窯九、水管、煉瓦を製す

せられ漸く省内販路を維持するに過ぎない狀態になつた

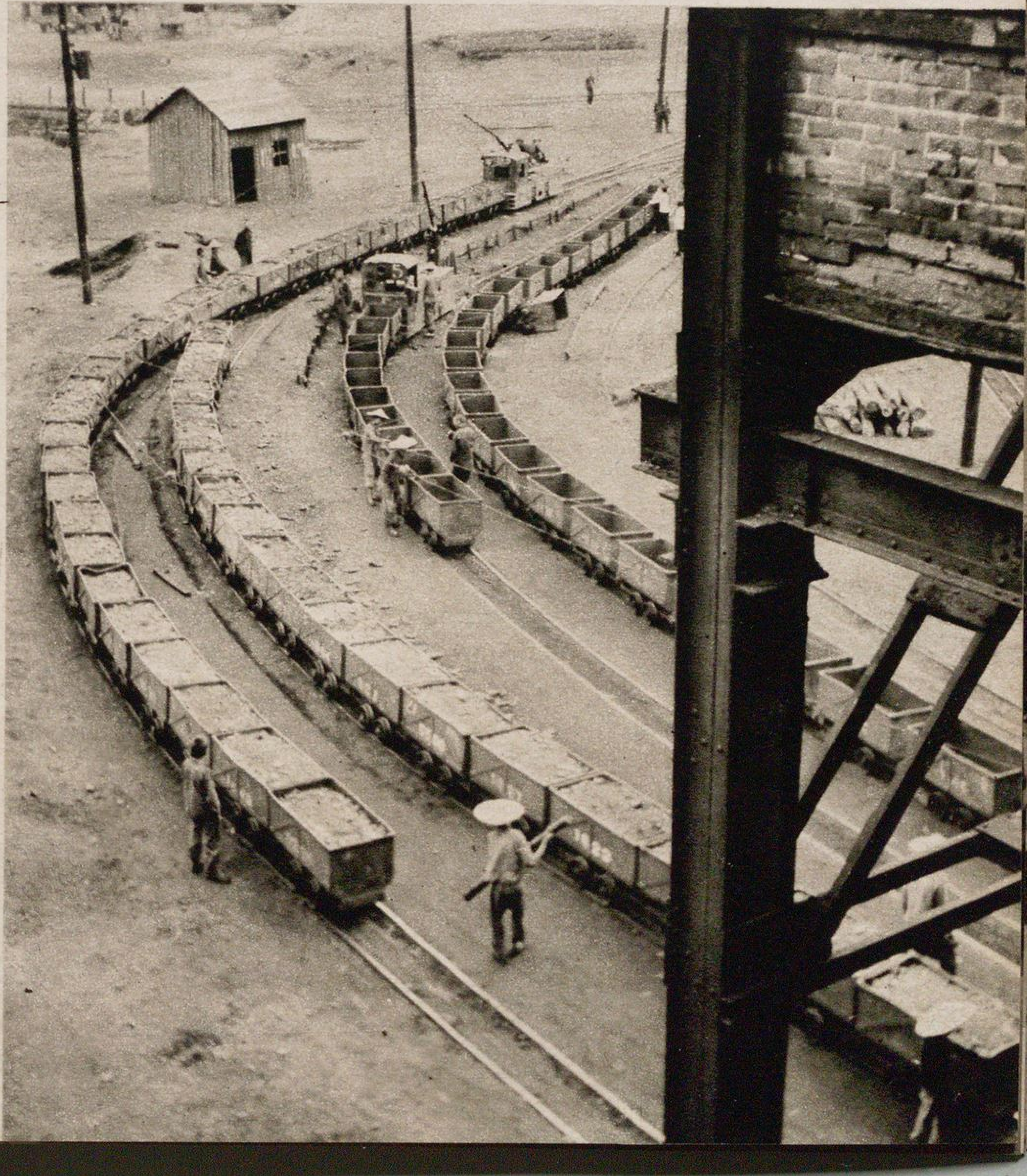
野趣愛すべきもの非常に多く、本誌でもその製品は再三紹介した。新民會では優秀なる邦人指導者を同地に派し、博山窯の復興に意を用ひてゐる

資源



淄川炭の搬出

石炭を日本へ



山東の地下資源中最も重要にして豊富なのは石炭である、其の質は火力の強いのもあれば粘結力の強いのもあり工業用に適してゐる

膠濟鐵道に沿つて章邱、淄川、博山、濰縣、昌樂、泰山以南に泰安、萊蕪、寧陽、費縣、臨沂、嶧縣、郯城など山東の至るところに石炭が眠つてゐる

また鐵は金嶺鎭北方の鐵山一帶に接觸鑛床をみる

平度、招遠、掖縣、牟平、泰山々脈中に金鑛あり、銅、鉛等も存する其他重晶石礦、アルミニウム鑛、粘土及び釉石等、品質優良にして甚だ豐富である。

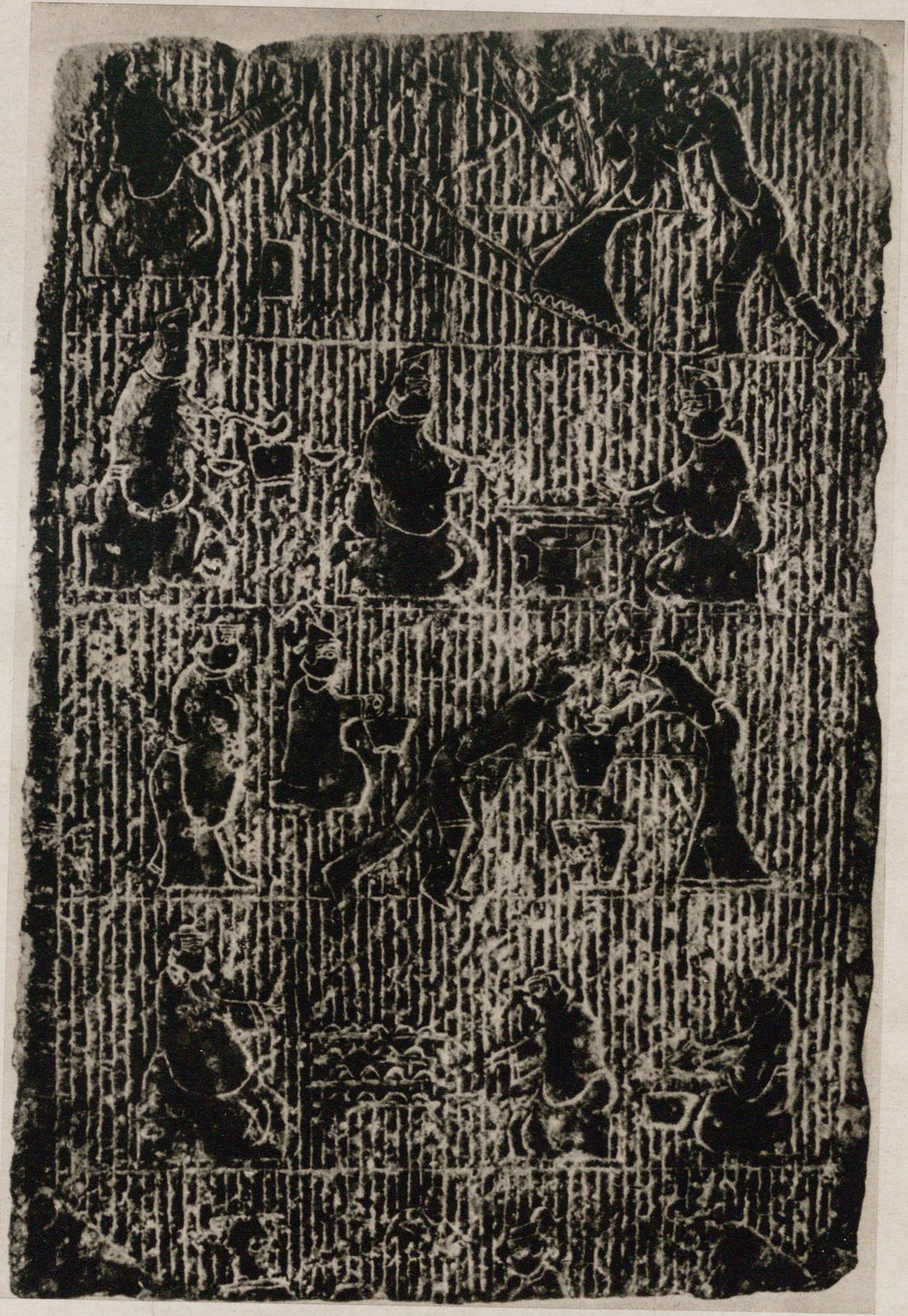
以上の如く、無限の資源は、原始的な舊來の土法から日本的指導によつて着着近代化せられ、治安の確立と相俟つて益々增產の一途をたどりつゝあるのである。



坑木



山東牛の輸送



嘉祥縣所得畫像石、畫面を五つに分ち、第一層、一婦人機に倚り、一人來つて說話するの狀、左方に一婦人絲を紡ぐ、第二層二人向ひて博戲をなすものの如く、左方に一人匙を持ち食物を盂に盛らんとしてゐる。第三層四人、第四層は三人、或は酒を漉し、或は食物を準備する如く、第五層は下半缺失す（漢代の作）



孔子見老子、濟寧文廟にあり、此の畫像石は、乾隆年間嘉祥縣武氏祠から移したものである。石の中央部に孔子老子と相對して、其袖中より鳥を出さんとするの狀を示してゐる。蓋し孔子老子に禮を問はんとする處、鳥は卽ち贄である。孔子の後一人をおいて兩馬を駕する車あり、孔子車と題し、又老子の後に、一馬車あり、更に三人を配する。（漢代の作）

山東の歷史

山東省は古の齊魯の地、四瀆の一たる濟水（現黃河流路）の流るゝ所、五嶽の一たる東嶽泰山の聳ゆる地である。二十四孝の筆頭たる聖王虞舜の耕した歷山は省城濟南の地と傳へられてゐるその他少昊金天氏と云ひ、黃帝軒轅氏と云ひ、帝堯陶唐氏と云ひ、何れも現山東の地に都したと言はれ、山東は支那文化の搖籃の地と稱すべきである。

古の所謂齊國は太公望呂尙の開いた國であつて、齊は臍なりと云ひ、天下の中心であると稱し、魚鹽の利を興し、勤儉武を尙び、天下の雄國となつたのである。又魯は周公の元子伯禽の開いた國であつて、禮樂を以て國を立て、兵馬倥偬の間にもなほ弦誦の聲を斷たず、孔顏曾孟の諸聖を出し、その思想は夙に我國に傳はり、わが國民道德の根柢を培ひ來つたのである

又五嶽の一たる泰山は帝王封禪の聖地である。封とは土を積んで天を祭ることであり、禪とは土を除いて地を祭ることである。王道政治の根本はマツリゴトであるが故に泰山は王道文化の根源である。しかもその山神は夙にわが國にうつし祀られ、泰山府君の名とその祭とは平家物語、源平盛衰記、北條九代記、曾我物語等の書に屢〻散見するところである。又宋初の孫復は泰山の麓に春秋を講じ、その著『春秋尊王

（次頁へ）



「泰山鳴動して……」或は「國を泰山の安きに……」とかのその泰山は古來日本人の間にも耳慣れた言葉である。泰山は五嶽（泰山、陝西の華山、河南の嵩山、湖南の衡山、山西の恒山）の最上級に置かれ、その神靈は萬物の運命生死を司る。歴代の皇帝は山靈の祭禮を行ひ、また前の朝廷に代つて新らしく支那に君臨した皇帝は、泰山の神に奉公祭を行うて始めて新政權が天下に認められると考へられたらしい（寫眞は泰山碧霞宮）

山東の歴史 二

發微』の思想は胡文定、胡籍溪を經て朱子に傳はつて『資治通鑑綱目』となつて大義名分を明らかにし、朱子の名分論はわが南北朝時代僧玄慧によつて日本に傳はり、北畠親房の『神皇正統記』となり、德川に及んで、光圀卿の『大日本史』となつた。わが維新の大業も、その思想の淵源は山東の泰山々麓の泰山書院に發してゐることに驚くのである。日支兩國の交通史より見れば、わが遣唐使の支那大陸に行くや、その初は何れも山東登萊の間に上陸し孔子は我道行はれず、桴に乗つて海に浮ばんとて、山東の一角より、海に浮んで皇國日本に渡らんとの志を抱き、秦の徐福は仙薬を求め、山東膠州灣頭より船を艤して日本に渡つた。若し夫



先師孔子行教像、孔子廟聖蹟殿内にあり、唐呉道子筆（唐代第一流の畫家）





淄河店にある齊の古墳群（三國時代）



鄒縣驛前にある孔子孟子誕生碑

革者元の邱長春は山東棲霞縣の人であり、その同志及び、門人即ち馬丹陽、譚長眞、郝廣寧、劉長生等何れも山東の產であり、日本の荻生徂徠を起した古文辭學の泰斗、明の李攀龍は山東歷城の產であり、又、武人としては、諸葛孔明、顏眞卿の如き忠臣を出した地である

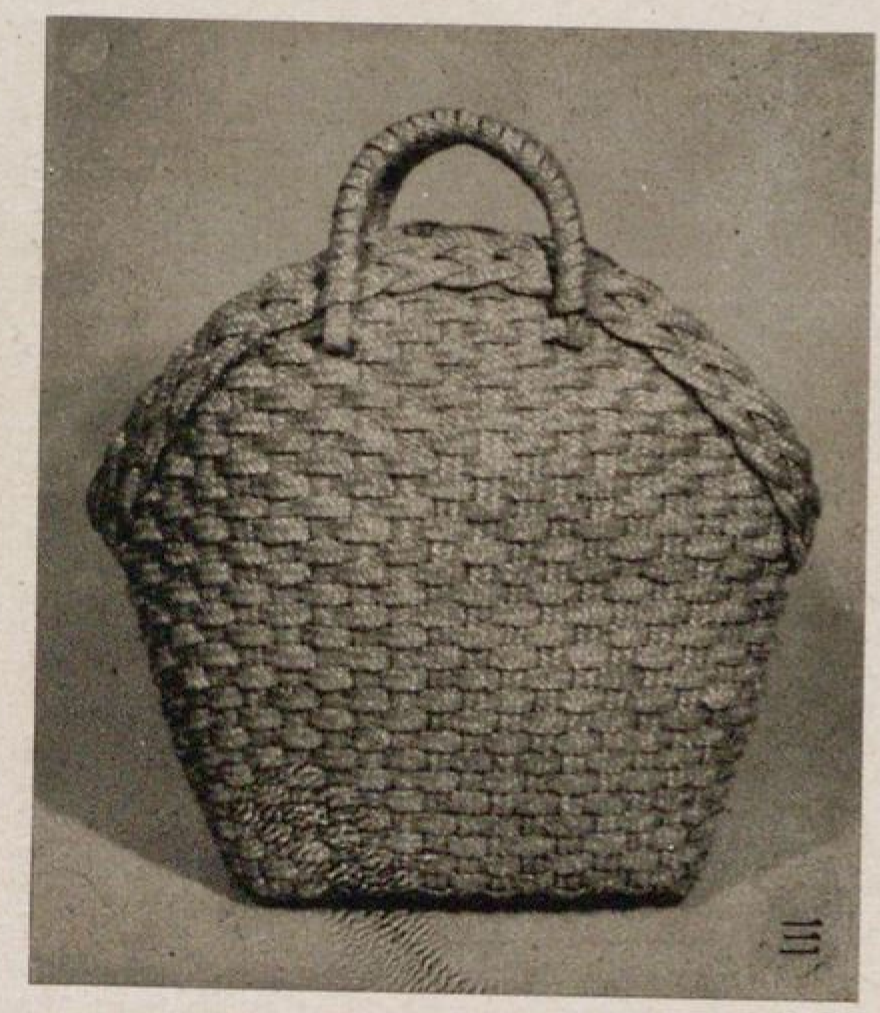


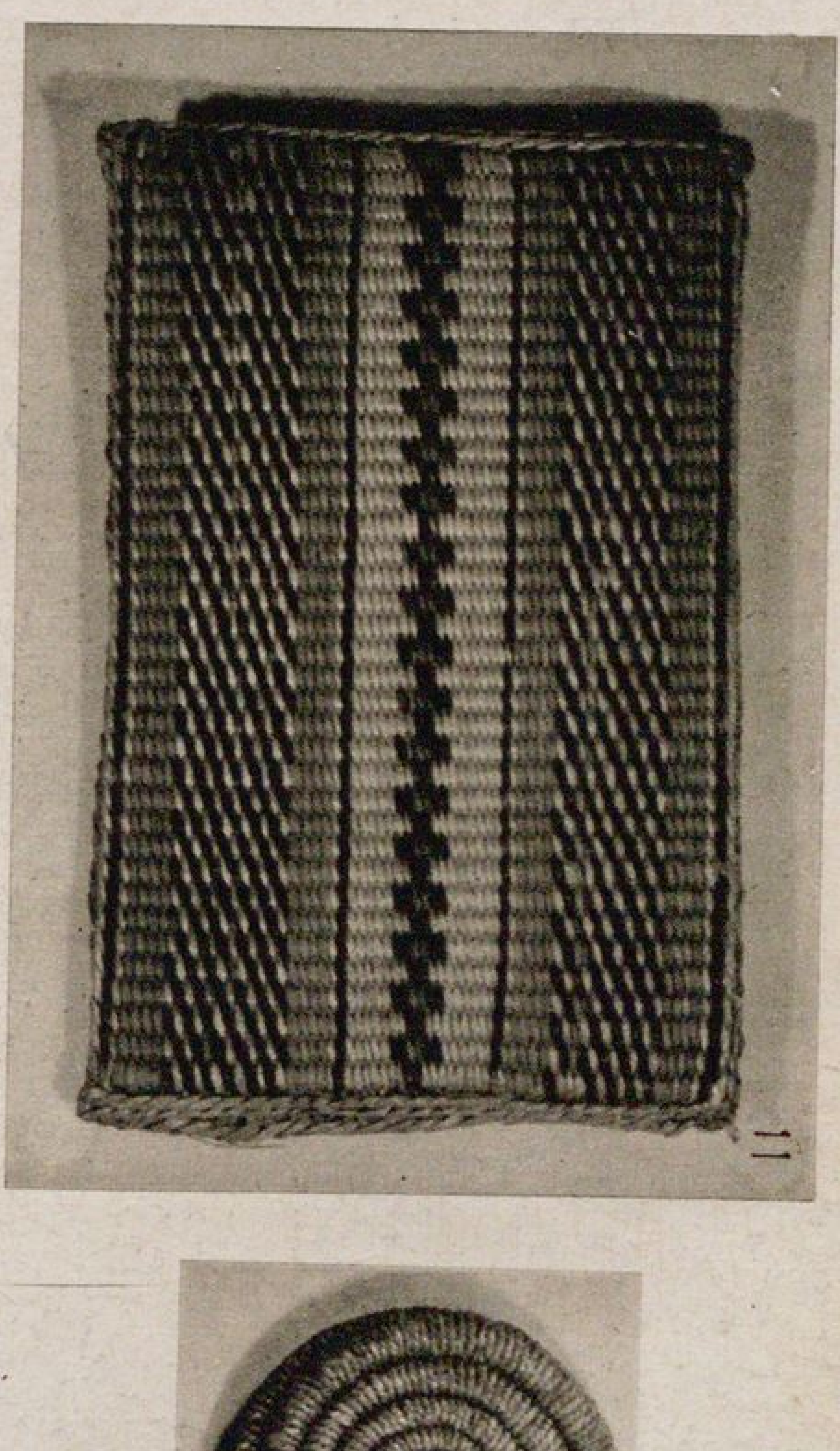
孔子廟

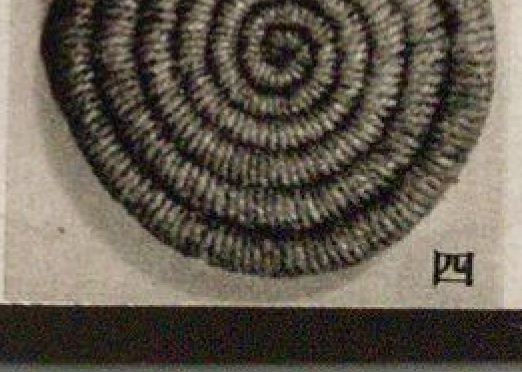
馬場春吉著、支那山東省より



山東の民具


三


二


四

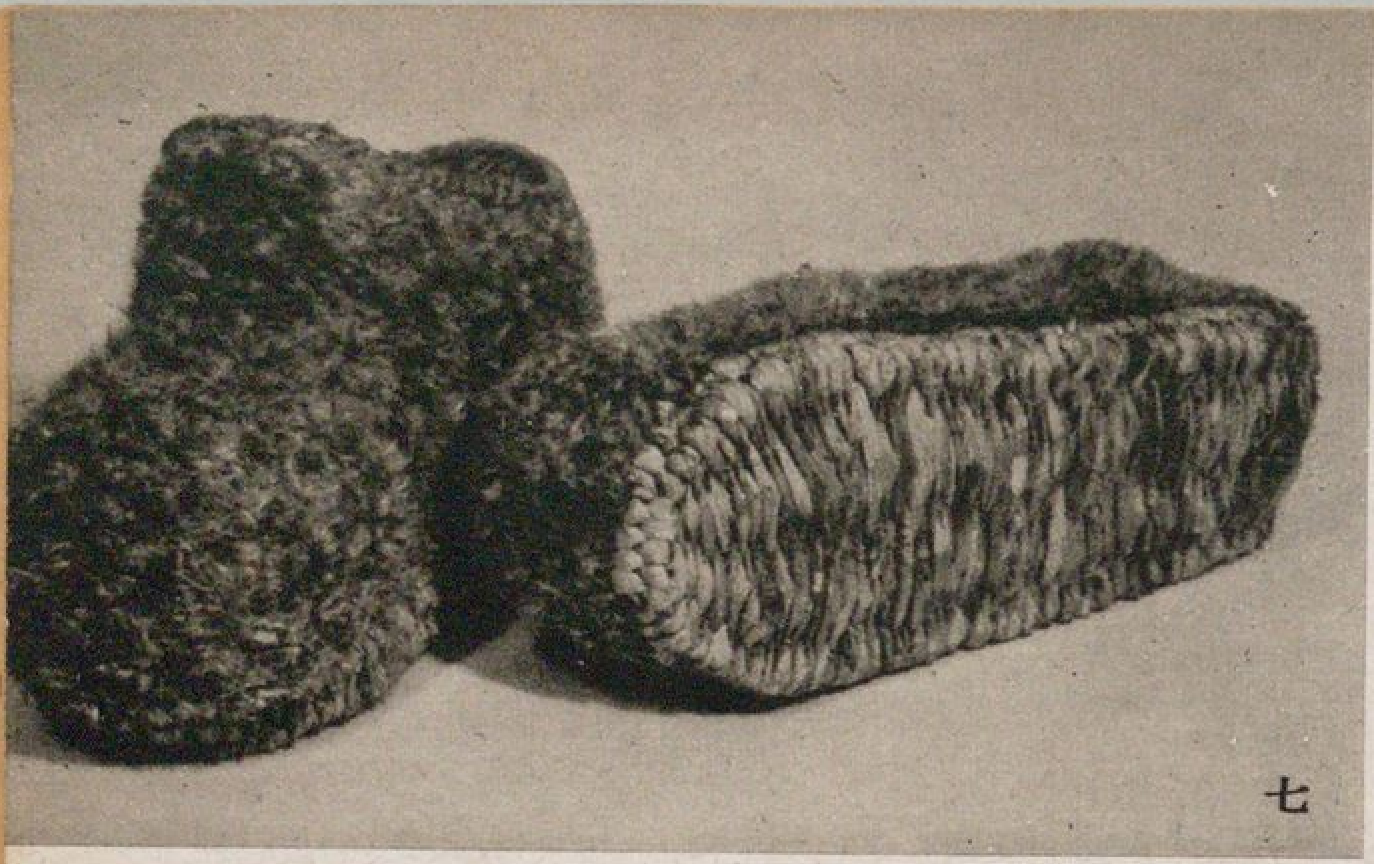
一、籃子、柳の枝でつくる
二、簾葦でつくる、椅子に敷く
三、提包、麥藁でつくれる手さげ
四、圓座
五、帚、裁縫臺の塵拂ひに用ふ
六、茶壺吨、蘆でつくる
七、草鞋、蒲の穗でつくる、防寒靴
八、毛斗、蘆でつくる、いいおひつカバーのやうなもの
九、箕
十、草衣



五



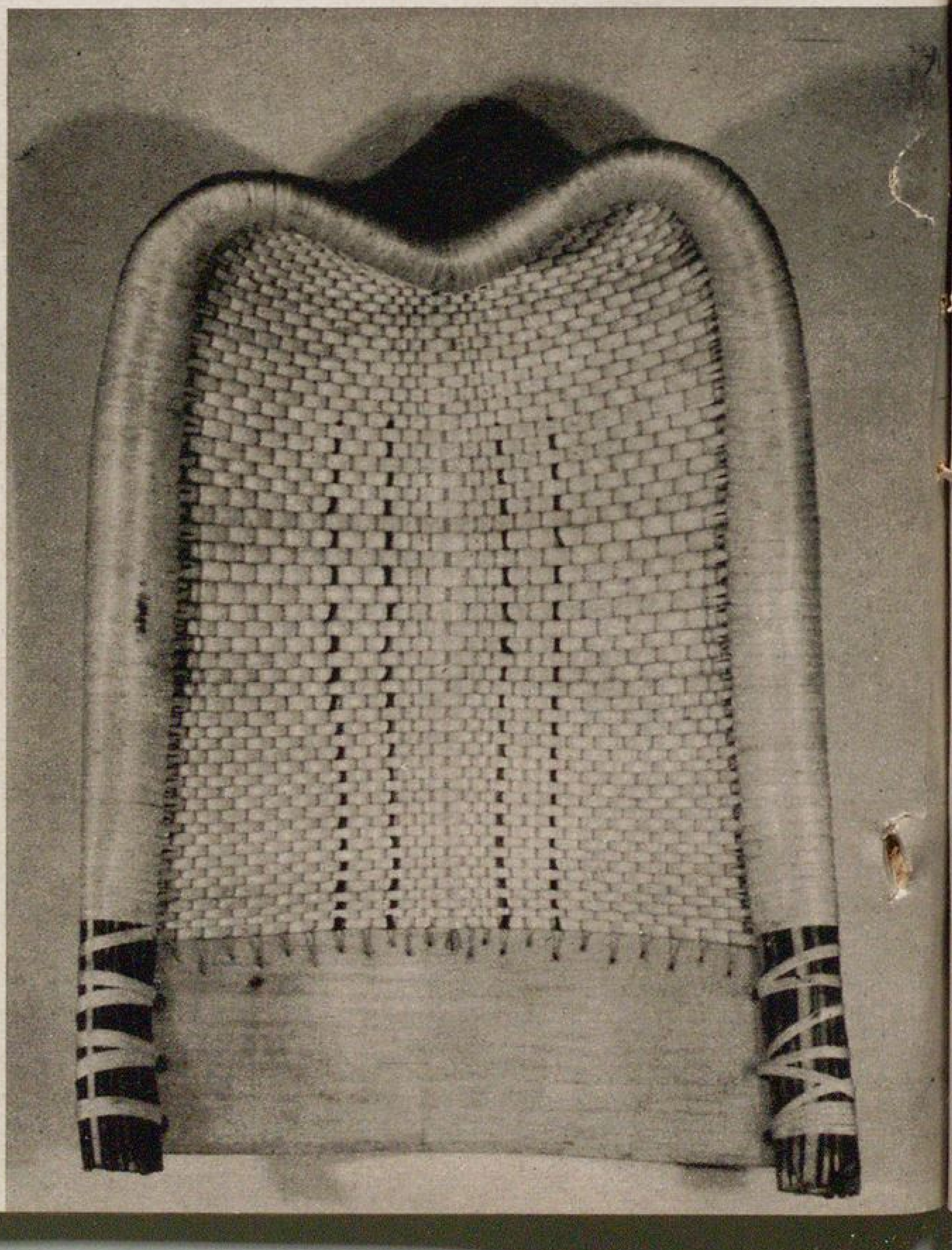
六



七



八





十


無敵！
第一位
ムリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産逸品！


クラウン万年筆
流線型
書きよく
體裁優美
構造堅牢
新生國策イリヂュウム
白金ペン付
大阪・東京・小倉
株式會社 澤井商店

山東運河略記

今堀誠二

運河の歴史

「道はローマに通ず」と言はれるが、何時の時代に於ても叉常に首府に向つて通じて居る。

今日知り得る運河の最も古いものは、兒島高德の詩で有名な呉王扶差が、紀元前四六八年に揚子江と淮河を結ぶ邗溝を開いたのに始まるのであるが、それも、當時、中國の富と文化の中心であつた華北と、江南の呉都とを結ぶ爲のものであつた。漢代には山東の產物を首都長安に運ぶ爲に、黄河を運河化して居た。然るに三國東晉時代以後江南の經濟力は躍進を遂げ、遂に華北に代つて中國の大穀倉となつた爲、隋はかの大運河を設けて江南の米を長安に迎へる事となつた。

かうして唐代には七百萬石、宋代には八百萬石を每年長安洛陽叉は開封に運んだのである。嚴密に言へば、唐と宋では運河のコースも多少異るが、いづれにしても山東省とは關係がないので今は省略して置かう。

元代になつて北京が都となつた爲、北京江南の輸送路が考へられて來た。然し遼金の版圖内の運河は當時全く役立たなかつたので、呉の邗溝卽揚州運河によつて揚州から黄河に出（當時黄河は現在の淮水の上を流れて居た）、これを遡つて開封附近まで來、陸運により御河に達し、それを天津迄降る方法が最初とられた。然し餘り迂回となるので、至元十三年汶水を改修して濟州運河を造り、揚州運河につゞいて濟寧まで達し、少し陸運した後大淸河を下つて利津に達し、これから海に浮んで天津に出る道が選ばれた。

然し利津が海港として無價値である事が判つた爲、同十七年山東半島を縱斷する膠萊運河が計畫され、江南から海路膠州に達し、運河を越えて萊州に現れ、渤海を横切つて天津に出る事になつた。運河工事には非常な努力が拂はれたが、この中央部がかなり高い上に運河用水に乏しく、結局失敗に終つて廿一年工事は全く放棄された。

所で利津が駄目だと判つて以來、濟州運河を更に北に延長して御河に達する事が考慮せられ、至元廿年には安山を經て東阿に達する運河が出來たのであるが、膠萊運河の失敗と共に一段と促進せられ、廿六年これを完成し、安山臨淸間に對して會通河の名が與へられた。一方通州北京間の通惠河が廿九年完成し、御河の改修も終つたので、通惠河—御河—會通河—濟州河—揚州河—江南河によつて北京杭州間の水路連絡の大事業が完全に出來上つた。日本ではこれを大運河と呼び、外國人も此にならつて居るが、中國では單に運河と稱するのが普通である。

この樣に元は山東省の各地で運河を次々と掘り、遂に目的を達したのであるが、會通河は幅も狹く深さも淺かつたので、其後連年の改良にも拘らず、年に數十萬石を運び得る程度に過ぎず、從つて主要なる輸送は海運によつたのであつた。然るにかの元寇前後から朝鮮方面に現れて居た倭寇は次第に中國の海面に轉じ、殊にこの海上輸送は彼等の好餌となつた。卽ち當時日本は戰國時代であつて、生產力勞働力の低下は食糧品の不足を招來して居たので、輸送米はその重要な目的物として

內容

第四巻　第十二號

狙はれたのであつた。

　明代になつて、その傾向は彌々甚しく、永樂帝は北京奠都と共に運河政策をとるに決し、黄河の氾濫で埋つた會通河を中心として大改修を行ひ、九年これに成功し、十三年に海運は全く中止した。かうして明朝は毎年五百五十萬石の米を唯一本の運河によつて運んだが、清朝もこれを繼承して四百萬石を規定量とした。かくて長く中國經濟の大動脈として、運河は重い使命を負つて來たが、清末になつて上海天津間の汽船航路が發達したのと、太平天國亂によつて運河の損害も少くなかつた爲に、光緒廿七年遂に大運河に於ける政府の施設を放棄して政府米の輸送を停止した爲、以來運河も歴史的生命を一先づ閉ぢたのであつた。

運河の構造

　山東省の地形を大觀すれば、東部に深成岩のモナドノツクで構成される山東山地帶があり、西部に黄河が運んだ土砂の作る黄土低臺地があると言へる。そしてその境界には、沖積層の低地が帶より細く續いて居る。泰山山脈に源を發した汶水は、西流してこの低地に出ると、そこで南北に分れて北行は黄河（元代の大清河今の舊黄河）に注ぎ南行は淮河に連る。會通河は前者を改修し、更に延長して臨清に達し、此所で衞河（元代の御河）に會して居るのである。これに對し後者を利用して造られたのが濟州運河なのである。從つて山東の運河は衞河會通河濟州河に大別される。この他に前述の膠萊運河があるが、その現況がどうであるか私は調査して居ないので、今は省く事とする。衞河は南山西に發し、北に轉じて臨清に達すると、これから下流天津に到る迄が運河に改修されて居る。隋が高勾麗遠征の爲造つた永濟渠もこれを利用して居り、宋元には御河、明清には南運河と通稱されて居るものが亦これに當るのである。省境近くを東北に走り、德縣を過ぎると間もなく直隷省に入つてしまふ。

　川邊に立つて眺めると、これが元來自然河であつた事がよく判る。川幅は三十米位で、多少の蛇行を見せてうねうねとつゞく。蛇行と言つても、直線ではないと言ふ程度である。眞赤な水が滿々と流れ、それも河北省の滄縣邊まではかなり早い。桃水と言つて、桃花の咲く頃解氷による增水を見てから、霜降節迄の間、水量が大であるが、以後は大體枯れる事黄河等と大差ない。打ち眺めた所、運河らしい特色は、兩岸の大きな隄防のみである。隄上には柳が中々茂つて居り、且つ長く續いて居るが、これは隄根を固くする爲に植ゑたものであつて、大清會典事例には、毎年河兵は百本、河夫は廿本植ゑる義務があり（官栽）、この他官吏等が寄附して植ゑる事もあると言ふ（捐栽）。柳と、河中所々に生えて居る葦とが、水に映る所は可成り美しい。隄防上は道路となつて居て、引船の人が、それを歩き進む。從つて普通の道路はこれに平行して設けられ、商店等も見出される。船付場は、河中へ十米ばかり臺を突出し、叉その內側に隄防を剏つて、さゝやかなドツク式の水域を設けて居るのがそれである。下の方は磚（煉瓦）で固め、上には切石を敷いて居る。附近の住民はこの水を飲料用に利用するらしく、その水汲の足場として板が河中に突出してゐるのも平和な姿である。

　隄防と船付場の他、人工のあとが餘り見られない程、極めて自然に出來て居るが、その代り上流から流して來る土砂で、河床がどん／＼うづまる。その中でも水流や蛇行の關係で堆積の著しい所は淺と呼ばれて居るが、淺には淺鋪が置かれてその浚渫に從事したものである。卽ち鋪には淺夫が居て、歳滯と言つて毎年輸送船が通過し、河水も減じた頃にこの工に從つたのであつて、山東省でも全體で千百五十三人の定員であつたと言ふ。なほ河兵は運河の保護監視兵であり、淺夫は河夫の一種なのであるが、今は元よりかゝる人々は居らず、河は年々運河らしい色彩を失つて行くばかりである。

　此に對して會通河は平地を掘つて作つた人爲的な運河である。尤も、安山から東阿迄は汶水北流を利用して居るが、その先は山東の平原を略眞北に向つて一直線に掘られて居る。然もその間に大黄河を始め徒駭河、馬頰河等を横切つて居るので、全く非自然的と言はねばならぬ。兩岸の隄防とか淺鋪の施設は衞河と同樣であるが、更に河の横斷に備へて壩と閘とを造つて居るのが、會通河の特色と言へる。壩は極めて厚い隄であつて、自然河の流を遮り又水勢を殺ぐ使命を有する。土で固められた隄の兩面に一丈ばかりの幅に柳その他の木や石を覆ひ、低部には護岸工事を施して居る。

　清朝時代には壩夫を置いて專らこの工事に當らせてゐたのでありその數も百人に近かつた。壩夫は山東のみに置かれたものであり、壩は會通河のみに存するのであるから、以てその重要性

が察せられる。閘は牐とも言はれ、一種の水門である。元史河渠志に「牐を立て水を節す」と記されてゐるから、元代以來設けられて居たのであらう。牐はその開閉により黄河等の暴水を防ぎ、又は運河水の減水を防ぎ、時に應じて此を排出するものである。その前後約五十米は石で疊まれて居るが、その面石の內側には海墁石が敷かれ、更にその內側を河磚（大きい煉瓦）で固め、灰土を使用し又鐵錠鐵鋦等を隨所に打つて、非常に頑丈にされて居る。閘の中央は河幅は十米位に縮められ、そこに相對して幅深さ共に三十糎位の縦溝を穿ち、その溝にそつて同大の角材をかけ渡し、順次この角材を積む事によつて水を遮り得る仕掛となつて居る。從つてこの角材を積み又は除く事によつて自由に開閉されるのである。閘は二十餘も設けられ、水を順送りにしてそれにつれて船を進める事も出來る。淸朝時代には一閘毎に二三十人の牐夫が配置され、この啓閉や又その他種々な仕事に從事して居たのである。

宣統二年の聊城縣志によれば、光緒廿八年に河員が撤せられると、直ぐにこの地方では水は乾涸してしまつたと言ふが、今では全然運河として役立たぬ事は言ふ迄もなく、その痕さへ殆ど消滅せんとしつゝある。元來河川を橫斷して運河を造る事は、從來の中國の技術では非常な無理であり、加ふるにこの地區では水の來源に乏しかつたから、かゝる地形的な弱點が克服されぬ以上廢滅も自然のなり行きであらう。

安山以南卽ち元代の濟州河は、大淸會典事例等に依れば魚臺以北を魚臺運河、祁縣以北を邪宿運河、以南を中河と呼び、又更に細別もして居るが、構造上からも又歷史上からも、これ等の間に差別はないのであるから、やはり一括して述べる事とする。前述の如くこれは汶水の南流を改修したものであるが、川幅も二十米位で、兩岸は極めて切立つて居て如何にも運河らしい。閘は二三百米間隔位に作られて居る。

元の兪時中の任城東隄記に所謂「地勢に高下があり、水流に緩急があり、阻艱の患が多かつた」ので數多く仕切る必要があつたと思はれるが、今では隄防も大變丈夫で石隄も少くない。その數も大變增加し、各縣志の記述を見ても山東通志等よりずつと增えて居る事が知られる。しかも單なる閘も少くないがその一半は收水閘（一名積水牐）及び放水閘（一名減水牐）であつた事がこの濟州河の特色である。尤も東昌縣には積水閘が一つあつたと山東通志にあり、又減水牐があつたと嘉慶東昌府志に見えるのであるが、共に一時的であつたらしく、例外と言へる。

收水閘とは閘の傍に更に水口の斗門を有するものであつて、減水時にはこの斗門を開いて增水するのである。これに對し放水閘とは水の餘りに增大した時調節し得る放水口を備へた閘である。かうした施設の故に、各閘で區切られた間の運河の水量は自由に變更し得るのであり、從つて衞河の樣に水が常に或方向に流れる事はあり得ない。

所で濟州河の特色はこれに留まらない。地圖を開いて見れば直ちに氣付く事であるが、これに沿ひ東西に湖水が續いて居る。北から安山・馬踏・南旺蜀山・馬場・昭陽・獨山の諸湖が數へられる。この內安山馬場の兩湖は運河の東又は西にのみ位置するが、他はいづれもその東西に跨つて、存在して居て、例へば南旺東湖南旺西湖の如くに呼ばれて居る。卽ち運河はその兩側の長隄によつて湖水を橫斷して居るかの如き姿である。そして東の方の湖水に面して收水閘が、西の方の湖水に面して放水閘が設けられて居る。例を擧げれば蜀山湖では永定永安永春の三收水閘があり又金線利運の二放水閘がある



と言ふ風である。換言すれば運河東側の湖は過剩水のはけ口を提供する。

　この地方では、この儲水を水櫃と呼んでゐるが、櫃とは蓄へると言ふ意味であつて、水を蓄へて供給し又受容して蓄へる事を示すのである。この內昭陽馬場南旺安山の四湖は四大水櫃と稱せられ、特に大切であつた。

　この儲水の水源には、汶洸洙泗の諸水を始め、諸河川に負ふ所も多いが、更に湧泉に負ふ所も少くなかつた。濟南に遊んだ人は、趵突泉を訪れ、自然水が龍吐から出る樣に猛烈に湧水するのを見て一應驚くのであるが、山東には水が偏在して居て、かゝる湧泉は中々多い。山東通志によれば、東平・汶上平陰・滋陽・鄒・曲阜・泗水・滕・嶧寧陽・魚臺・濟寧・泰安・新泰・肥城萊蕪・蒙陰等の十七州縣にわたり四百二十の湧泉があつて、それが皆運河に注がれて居る。この湧泉は或意味に於て運河の生命を握つて居るとも言へるのであるから、明清時代はこの保護に特に力を注ぎ、兗州に管泉同知を、各泉に老人と泉夫を置いて、水源の確保に努めた事は、舊く李如圭の治水行臺記に見える。この泉夫等は又山東の濟州河に限り存するのであつて、湧泉の重要性は以て徵すべきである。水に關して拂はれた周到なる用意は、驚嘆に價する所である。

　濟州河は自然河に依り乍らしかも人工の精を極めた施設を具備したのであるが、それは元より一日にして成つたものではなく、元代から逐次作られ、明代に最も努力され、清朝に整つたのである。從つて今に於ても元代の牐や明朝の隄が數多く殘つて居る。然し光緖の放棄以後、水源が次第に奪はれ、それにつれて湖水が消滅し（南旺湖馬場湖）乃至は東湖又は西湖の一が陸地と化する等の現象が現れ、從つて收放水共にうまく行かぬ上、運河の浚渫さへ怠り勝であつて――前清には淺鋪は無論此所にも存した――閘も空しく遺跡化しつゝある。從つて日々舟行の困難が甚しくなつて來て居る現狀である。

運河の社會

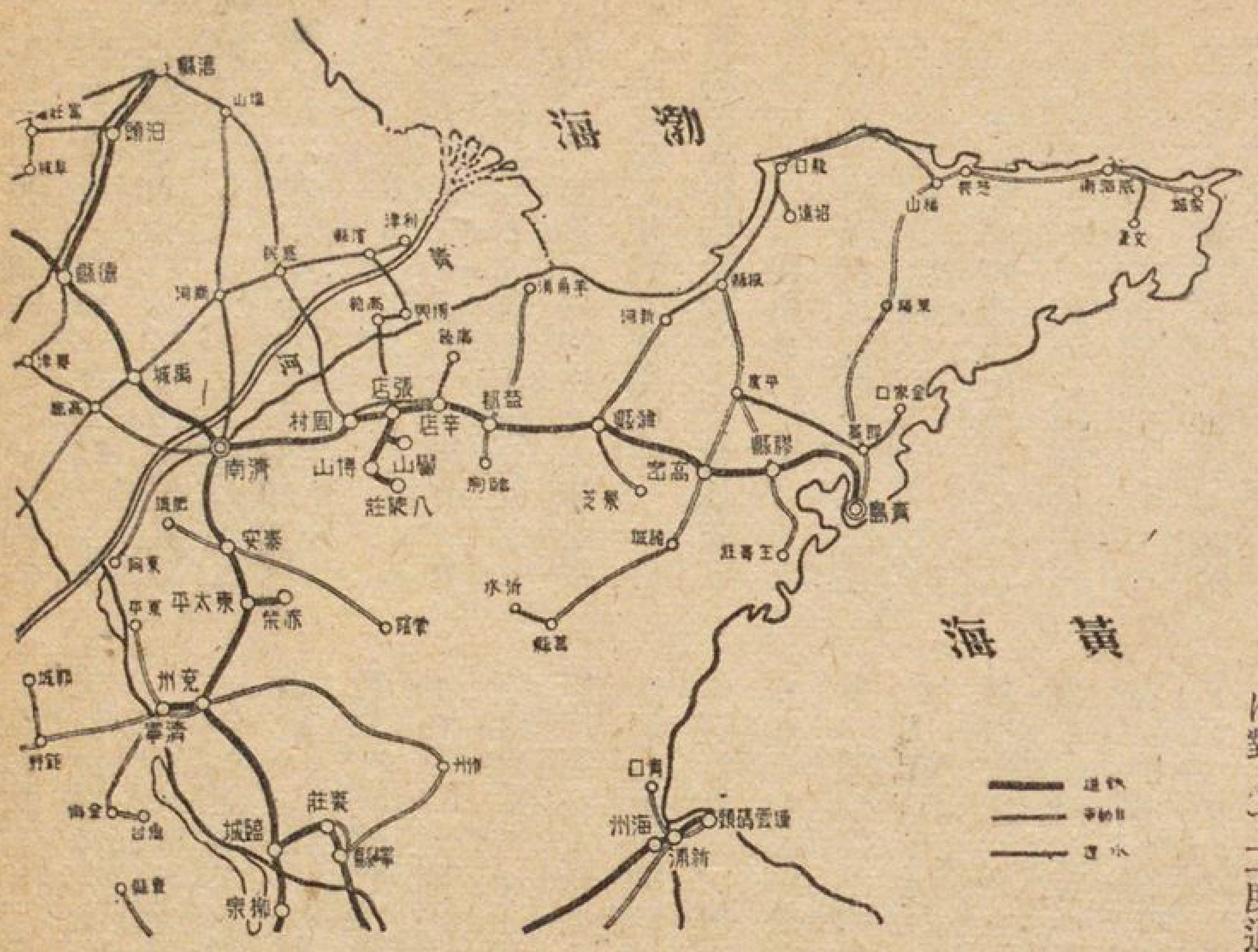
　大運河は、言ふ迄もなく逞しい人間の意欲――中國人の獨特な生命力が、自然を征服して作りあげたものである。而も一度出來た後は、更に多くの人々が、運河によつて、生活し又殺され、樂しみ又苦しんだのであつた。この運河をめぐる喜悲劇の姿を、林語堂の北京好日（Moment in Peking, by Lin yü t'ang、四季書房譯本）を借りて、簡單にスケツチして見よう。

　北京の豪商姚一家は、拳匪の亂（北清事變）をさけて杭州に行く事になり德州までは馬車で、以後は船で行く豫定であつた。その逃避行の途次、美しい少女木蘭は拳匪に攫はれ、德州郊外に藏される。この頃姚家の知人で北京の高官曾一家は、北京からずつと運河を下つて泰安に向つて居たが、木蘭の攫はれた事を知り、これを救ひ出す。彼等の、曾の字を大きく書いた赤旗を立てた大型の運河船は、東阿迄會通河を下つて、此所から陸路泰安に到つて居る。卽ち完全に治安の失はれた時に於てさへも、官僚特に高官は、その所有の船で、全く安全な船旅を續け、更に知人の子を助ける餘裕さへ持つて居るのである。戰亂の內でさへ、自己の安全の爲に逃亡中の彼等に、かゝる幸を與へる程、運河は「官僚の爲のもの」なのである。運河の設立及び維持が彼等の手によつて居る以上當然な現象でもあらう。かの隋煬帝に結びつけられてゐる豪華な運河による行樂も、言はゞ支配者階級の持ち得た特權である。清朝時代には運河は山東巡撫の直轄の下に、官僚的組織が作られ、總て彼等本位に運ばれて居たのである。

　所で運河の實際的な支配者は青帮であるとされて居る。青帮は今でこそ上海佛租界と聯想して考へられるが、それは大運河放棄後の現象で、長い歷史に於ては大運河と共にあつたのであり、現在でも運河地帶の軍警商界は、壓倒的にその支配下にある。

　彼等自身の信ずる所によれば、青帮は雍正年間に漕運事業の全部を請負つて居た翁錢潘の三氏が、運河地帶を橫行した土匪に對抗して舟行の安全を確保する爲に、配下の全運河關係者によつて組織した秘密結社であつて、その名稱も安清帮卽清室を保んづる帮の意より出たものであつた。後清室滅亡後安の字が削られ、又土匪の團體たる紅帮に對して三水邊を取去つて單に青帮と記すに至つたと言ふが、然し實際上現在に於ても安清帮の字が普通に使はれて居る。帮は親分子分の關係で――結ばれ、親分には絕對に服從する他、共通に帮の憲法たる十大帮規を奉じて、帮の秩序を守り、禮教に順ひ、禍福を共にする事を死を以て誓つて居る。特殊な暗號によつて、帮員と然らざるものを區別する。帮は極めて系統立つて編成され、例へば東昌府には六帮あつて軍船一五九備船四六を有した（東昌府志）と言ふ調子で、全體を通じて組織

化されて居たのである。再び北京好日に立歸れば、木蘭救出の爲に曾氏は青帮の一味の一人をある酒屋に呼出して小頭目の所に案内させ、この小頭目に木蘭の行方の探索を命じたのである。木蘭は拳匪の手中にあつて青帮に捕へられて居たのではなかつたが、然し小頭目は三日目に所在をつきとめ、續いて百兩の身代金で曾氏に木蘭を渡して居る。林語堂はこの間の事を「彼（曾氏）は大運河の青帮には、けちな盜みは勿論、誘拐についても完全な組織があることを知つてゐた。山東の土匪は山西の銀行家に負けないほど、立派な組織を持つてゐた。それで當時にあつては、銀行家は青帮の北京事務所から發行される護照に署名捺印して貰つておけば、銀を積んだ荷車を土匪の跳梁する山岳地方を經由して安全に送ることが出來た。途中の土匪はその署名を尊重した。政府とは異つて、同じ荷物に對して二度通行税を取ることは、匪賊の道義ではなかつた。彼等の誓言はどこまでも誓言であつた。」と説明して居る。



彼等遊民群は、常時にあつては常に官僚の權威の前に屈し、官僚利益の保護者となつた。かの小頭目にしても、曾氏に嚇されて唯命に從ふばかりである。更に今日でも彼等青帮員は、曾ては蔣介石の、今や汪精衞の前衞隊として活躍して居る事等、皆然りである。

彼等運河關係者の生活は、決して樂しいものではなかつた。官よりの强制匪賊との連絡及び鬪爭は元よりの事、舟行自體にも、北行に際しては濟州河を、南行に際しては會通河、衞河を遡航する困難があつた。江南と異つて帆走が殆ど不可能な山東地區では、ひき船に頼つたのである。現在ひき船をなすには、船の中央の兩舷に柱を立て、その頂上を眞中で結び合せ、此所からら綱をつけて岸に渡すのである。岸の人はこの綱を引くのであるが、その先は、人數に相當して分岐させてあるから、何人でも引ける。一方、柱の頂からは同時に逆に後方に向けても綱をつけ、此を船尾近くに倒した帆柱に結びつけて、以て中心部の柱の轉倒を防いで居る。引綱は通常進行方向に向つて右側の岸のみに渡されるので、船は岸に引寄せられるのを防ぐ爲に、船頭は上手に竿を使はねばならぬ。運河船は喫水が淺く、船幅が廣いから、抵抗は多いのであらうが、それでも船は中々早く進む。この仕事は見て居ても苦しさうである。彼等がこれに耐へて、どれ程所得があつたかは元より不定と言ふ他なく、又彼等の中にも樣々な階級があつたであらう。然しいづれにして

も、奴隷的性格の故に、そこに幸福があつたとは信ぜられぬ。秘密結社――青幇の組織されたのは、かうした社會狀況の所産でもある。かゝる結社にこそ中國人の不拔の生命力を看守すべきであらう。

さて木蘭が行方不明になつた時、彼女の伯父は滄州から德州迄運河に沿つて歩き廻り、到る所の茶店で木蘭を捜す爲の貼札をして居る。又德州では旅館酒店錢莊吳服店飛脚などが曾姚兩家や青幇等によつて利用されてゐる。かうした運河に附隨して發達した商業は現今に於ても相當盛であつて、殊に濟寧の如きは運河の兩岸に面して數百の店が軒をならべ、食料衣服藥品船具等の船頭相手の日常百貨が賣られてゐるのみでなく、夜は露店の夜店が繁盛して居る。そして城内の如きは、運河町と比較にならぬ寂寥振である。勿論今日では運河町は日々不振となりつゝあるが、清朝以前は聊城臨淸德州等、山東の主要な都市は皆かゝる種類の町であつた。前資本主義社會に於て、政府の重農抑商政策に拘らず、常に太るのは商業金融業であるが、政府が運河の爲に拂ふ莫大なる富が、自ら流れつく先は運河都市であつたから、この現象を見るのも當然であつた。

此に反して、運河が一般民衆に及ぼした迷惑は大したものであつた。

前記の如く牐夫淺夫泉夫壩夫その他の河夫として、徵集される人は數千の多數に上る。田顯の上奏によれば、明代以來河夫は土地四十畝と銀若干を給せられ、又牐夫は四六時中使はれると言ふ理由で――同時に使ふ爲に――房屋二間をも給せられてゐた。だが河夫は毎日その職務に從ふのであるから耕す暇はなく、假に親兄弟があつたとしてもその田が彼等の住居から遠かつたり、又耕作不能の荒地であつたりして、實際上役立たぬ場合も多かつた。百%役立つたとしても、四十畝では一家の生計を支へるに足りなかつた。古來、百畝が最低生活維持の基準と考へられて居たのである。そして四十畝には無論税が課せられて居た。河夫の主要な仕事であるひき船の事は、前にも述べたが、殊に箠楚におどかされつゝ從事する立場であつて見れば、一層辛かつた。

河夫とならぬ者でも、臨時に徵發される事が少くなかつた。元の趙文昌の孟陽泊石閘記に、水が淺くなると民が挽船に使はれて困ると記されてゐるが、又修理に傭はれた事例も多かつた。この修理は總て地方民の負擔であつて、河銀と稱して一般から徵集した金によりその費用を賄ふのであつた。修理に必要とする物資も又强制買上てあつたが、柳その他材木は山東には元來乏しいのであつたから、割當てられて非常に困つたのである。

間接的な事では更に重大な問題があつた。山東のこの地方は水が少く且惡いのであるが、加ふるに主要な河川と滙泉とを運河に獨占されては、農業經營上の大障害となつた。止むなく井戸水に賴つたのであつて、今でも驢馬に水を汲ませて灌漑を行つて居るのが、この地方の田園風景である。或者は私費を投じて公共用の井戸を掘つた。義井と言ふ名で呼ばれるこの種の井戸の多い事は、運河に抑へられた民衆の、反動的精神による自活の方法の表現である。だが、豪族等はこんな消極的方法に甘んぜず、湧泉の水を侵奪するに至り、官との間に水の鬪爭が演ぜられて、政府は度々これに對する禁令を出さねばならなかつた。

もし現代に於て大運河の回春を企圖する人があるならば、技術的な點のみでなく、社會的なる點にも考慮を拂つて、新時代の運河として完全な再出發が行はれる事を希望しておきたいと思ふ。

（筆者・北京師範大學講師）

山東に因む劇

石原巖徹

春秋戰國の時代の山東卽ち齊魯の地は名君賢相輩出し種々の史譚に富むのであるが、何故か劇に作られたものが少い。山東に因む劇としては唐時代及び宋時代の綠林的豪俠趣味に基くものが多いやうである。水滸傳の梁山泊が山東にあつたことになつてゐるのも、或は古來この地方が綠林の本場であつたとゆうことを物語るのではないかと思ふ。その方の研究は別の機會に讓るとして、以下山東に因む劇に就て述べることにする。

「黄金臺」

この劇名は支那劇によくある例の通り、實際演ぜられる劇の內容とは殆ど係が無い。戰國の代の齊の末期滑王とゆう暗君が鄒妃とゆう惡質の女の色香に溺れ、それと氣脈を通ずる惡宦官伊關立を寵用して、朝政は彼等の意のままに飜弄された。こゝに齊の太子田法章なる者、賢明の譽高く正道をふんで彼等の專横を監視し、ために眼中の釘となつた。そこで彼等は太子を除かんとして、太子が鄒妃に對して不倫の擧動に出てたと王に讒言し、王の命に依つて太子を捕殺しようとする。それと知つて太子は逃げるところを王の一族の豪傑田單に救はれた。劇はこゝから始まる。伊立は太子を搜索に歩いて田單の家に赴き取調べるが、田單の奇計で太子を女裝させ彼の妹だと言つて伊立を欺く。女裝したぐらいでは直に看破できる筈と思ふがとにかくそうゆう話になつてゐる。伊立が失望して出て行つた後で、田單は後難を恐れて太子を伴つて齊の都（臨淄？）を逃れ出し卽墨に走るとゆうところまでゝ劇は終となつてゐる。この劇の主役は田單（老生）で、その唱が聽きものである。また伊立の役は花臉（限取役）で敵役としてのにくにくしさが出ねばならず、田單に劣らぬ重要な役であり、若し老生と花臉の名優二人を得れば、この劇は簡單な割にかなりみごたへのあるものになる。

この物語の後日譚は、燕の樂毅が討齊の軍を起して所謂「一日にして齊の七十餘城を下だす」とゆう大戰果を擧げ、滑王をはじめ伊立鄒妃等の奸物は悉く滅されてしまふが、最後に田單が木曾義仲の先輩として火牛の陣を以て燕軍を擊破し、太子卽位して齊室中興の基を開くとゆうことになる。劇名の黄金臺とゆうのは、燕の昭王が天下の賢士を集めるために設けたもので、樂毅は最初、齊に行つて伊立に嫌はれ、燕に走り黄金臺に入つたのであり、若しこの劇が樂毅を主役とするなら黄金臺も好からうが、今日實際に行はれてゐる劇は上揭の通りであるから名實不符と言う外はない。又この劇の別名の內「田單救主」「搜府盤關」は好いとして「樂毅伐齊」は同樣名實不符である。尤もこの劇の物語が本來樂毅を主人公とした「黄金臺傳奇」とゆう小說から出た關係上さうしたのだとの考證もあるが、それにしても依然贊成し難い。むしろ田單が主役なのだから「火牛陣」とでもした方が適切であらう。

なほ書き落したがこの劇のもう一つの見せ場は田單が太子を伴つて逃げる時、城門で伊立の配下の役人に捉まつて調べられ、種々問答の上錢をつかませて虎口を脱するとゆうくだりであつて、支那の小役人氣質を支那劇一流の道化役（丑角）を以て痛烈に諷刺する演出法を取つてをり、支那人氣質研究上極めて興味の深いものである。

「賣　馬」

唐の太祖及び太宗を輔けて大唐帝國の基を固めた功臣中には綠林的な豪俠が非常に多い。綠林的と云ふのは必ずしもヤクザでないが、性質上綠林の豪傑連と交遊したり、或は綠林道から敬愛されてゐたとゆう種類の人物が多いからである。その筆頭が秦瓊字は淑寶歷城縣（今の濟南）の人である。この人は尉遲恭（敬德）と共に唐の二大功臣として、正月の門に貼る「門神」のモデルにもなつてゐる。門神の顏の黑い方は尉遲恭、黑くない方が秦瓊である。この人達の事蹟を大衆小說化したのが「隋唐演義」で、それから取材した劇は種々ある。その最も有名なのが賣馬（或は當鐧賣馬）である。

隋の末期、秦瓊は歷城縣の都頭とゆう役（一種の警官）を勤めてゐた時、盜賊十八名を捕へて天堂州（今の何處か不詳）とゆう處へ護送して行つた。途中賊の一人が死亡したために、書類

の人數と合はないところから嫌疑を受けて州の役人は受取證を渡さない。正義派の彼は「運動」とゆうことをしないから一年餘りも宿屋で待つてゐるうちに、旅費も無くなつてしまつた。宿の主人からさんざんに責められた揚句（劇はこゝから始まる）武人として大切な馬を賣ることにした。この馬は黃驃馬と云ひ兵部堂の大人が彼の人物を愛して特に與へたもので、愛馬以上の貴重な持物であつた。こゝで彼は、鹽原多助もどきに涙を流して別れを惜しむ。

この場の唱「天主東、帶過了、黃驃馬……」は、凡そ京劇を嗜む者で知らないものは無いとゆう名曲である。ところでその馬の買手を宿屋の主人がみつけて來たのは、單雄信とゆう同じく後年唐の功臣となつた河南の豪傑である。山東に秦瓊ありとゆう名は雷の如く江湖にひびいてゐたので、忽ち二人は意氣投合したが、急用が出來て單雄信は錢を拂はないでその馬に乘つて旅立つてしまつた。いよいよ窮した彼はその生命ともゆうべき愛用の武器雙鐧（鐧は鐵の棒を四角に造つた鈍器で、鞭―ムチにあらずベンと讀む―に似た重量武器二本が一揃になつてゐる、常人には使へず、剛力者でなければならぬ）を手離すことに決心し、街に出て買手を物色した。とある酒屋で二人の豪傑が飲んでゐるのを見て、それに賣りつけようとすると、その鐧を見た二人は、これを使ふ者は山東の秦瓊より外にはない筈と思つて、その場で使つて見せろと言ふ。やむなくそこで鐧を振り廻して武藝の型を見せると、二人はテッキリ秦瓊だと看破し、酒を進めて禮をつくし、交りを求める。始終を聞いた二人は、そんなことは雜作は無いといつて、使をやつて天堂州の知縣から受取證を取寄せてやり、その上に路銀まで與へて、山東へ歸らせる。劇はそこで終る。この二人は王伯黨と謝雲登で無論、後年唐の功臣となつた綠林の豪傑である。

面白いのは、役人の秦瓊の力で得られない受取證が、綠林（大盜）の王や謝の顔で苦も無く得られたとゆう點であつて、これも支那研究上注目に値する問題である。

この劇は譚派老生の十八番物の一つで、主役秦瓊は老生役のもの、重點はその唱にあり、他は全くの端役で老生の一人芝居である。

「賈家楼」「打登州」

同じく秦瓊等一黨の物語で、「賣馬」で知られるやうな事情から秦瓊は役人でありながら、貪官汚吏的な官憲から怖れられる綠林の豪傑連と交遊關係が出來た。「賈家樓」とゆう劇は、それらの豪傑三十六人が秦瓊の母の誕生祝を機に賈家樓（賈某の開いてゐる酒店）に集り兄弟の義を結ぶ。その一人の程咬金なるもの（これも山東人）は、前に朝廷への上納金を掠奪したことがあり、そのため秦瓊に迷惑をかけては悪いと思つて、自首して出る。結義のめんめんは牢を襲つて、程咬金を救ひ出す。

この劇は水滸傳的な味がある。武劇であつて最後の牢屋襲撃の立廻りが見ものである。處は齊州とあるから今の濟南附近であらう。

「打登州」の方は、前述の豪傑連が官軍に反抗して瓦崗寨とゆう處にたてこもつたので、一黨と連絡ありと見られた秦瓊は、捕へられて獄につながれる。山寨では、程咬金が大將分となつて、秦瓊救出策を協議し、おのおのが各種の行商人に扮装して街に下る。街で秦瓊が縛られて都へ送られて行くのに出逢ひ、それとなく秦瓊に救ひに來たことを知らせるが、役人の方でもそれと感づいて、こゝに双方入亂れての大亂鬪となり、結局官兵は敗けて秦瓊は助けられる。題名の登州は疑問があるが、この劇では登州の街で起つた出來事とゆうことになつてゐる。この方も最後の立廻りを觀る武劇であるが、秦瓊は一貫して老生役である。程咬金は支那劇では有名な道化役になつてゐるが、「賈家樓」に限り武淨（道化でなく隈取りをした武劇役）にしてある。「打登州」では普通の如く道化役（丑）である。

因みに、これらの劇の主人公秦瓊の遺跡として「旅行指南」の傳へる所では濟南の西關五龍潭、城を距る約半里（支里）の處に、秦瓊の邸宅の跡があり、今は中西總醫院になつてゐて、構内に「秦淑寶故宅」と記した碑があると云う。

「烏龍院」

支那随一の社會小說兼劍俠小說たる水滸傳に取材した劇は相當ある。この小說の舞臺は梁山泊を中心として大體長江以北の地であるが、梁山泊が山東

第一書房

新刊

東京麹町區三番町
振替東京 六四二二三

良寛の歌

須佐晋長著（B6判 三三六頁）價一圓八十錢 送十五錢

清貧の中にありて感謝の生活をおくつた良寛の、つつましき歡びの歌を三百首!!新しき解釋によつて現代人の心を洗ひ淨めます。一世に拗ねず人を恨まず、美しき心情を抱いて一生を終つた反省深き彼の人間性こそは、その短歌に見られる味ひを生んだものでありませう。今日果してかかる良寛の歌を味ふ必要がないでせうか。『良寛の一生』の著者が贈る新研究

良寛の短歌は一茶とは、また異つた境地と風格をもつて、同じやうに生きるいのちの歡びをうたつてゐる。本書はこれまで萬葉調といはれた在來の良寛の歌に對する謬見を正して、著者の新なる努力によつて良寛の歌の持つ生命を探つたものである。戰時下ともすれば人心の荒立ちがちな今日こそ、私たちはこのつつましき歌によつて感謝の生活を教へられるのであるまいか

現代の文藝評論

板垣直子著（B6判 二四七頁）價一圓五十錢 送十五錢

文藝復興期より行動主義を經て日本浪漫派の擡頭から大東亞戰爭開始まで十年間を展望する!!

文壇隨一の女流評論家たる板垣女史が、豐富な資材と良心的確信をもつて、轉形期に於ける文藝批評の動向を歷史的に敍述し批判せる堂々四百枚にわたる書きおろし長篇評論である。文藝批評の流れを歷史的に記述することによつて我國文學界の諸問題を更めて解決し、底に潜む眞の問題性に對決して、新なる視野を打開した文藝批評史!!本書は女史の聲價を更に高からしめるであらう。

東西哲學の比較研究

マツソン・ウルセル著 大島豊譯（B6判 二四三頁）價一圓八十錢 送十五錢

本書は東洋哲學と西洋哲學の比較研究の重要性を論述し、比較方法の理論を確立して、それを東西の兩哲學の對照研究に應用した點、世界最初の著述である。（内容第一部・哲學の實證性・比較方法について・類推の實證的見解・環境の實證的概念・心の眞批判としての思想史の比較研究・比較第二部哲學の比較年代學・比較論理學・比較形而上學・比較心理學・比較哲學の教育的可能性）

英國發展史論

シーリー 古田保譯（B6判 四八〇頁）價二圓五十錢 送十五錢

敵を倒す爲には敵を知らなければな
らない。本書は科學的であると同時
に具體的なことを信念とする英國史
家の權威シーリーが、
質を究明した大著である。

に在つたことになつてゐる關係上、之から出た劇も山東に因むものが多い。梁山泊の首領宋江も山東人とゆうことになつてゐる。

「烏龍院」はその宋江が梁山泊入りの契機となつた殺人事件を脚色したものである。宋江が山東鄆城縣の書吏を勤めてゐた時、烏龍院とゆう家に閻惜姣とゆう妾を圍つてゐた。妾は淫婦で宋の部下の張文遠と私通し宋を嫌つてさんざんにふりとばす。それと感づいて宋は妾を殺してしまはうとするが、一たん思ひ止まる。或時宋は梁山泊の友人晁盍（最初の首領）から來た手紙を烏龍院に落し、後からそれを取りに來ると、妾は手紙を匿して渡さず、若し離緣狀を書くなら渡すといふ。やむなく書くことにしたが、いよ〳〵となると妾はこの手紙は縣の役所で渡すと云ふ。妾は宋が官憲に反抗する梁山泊の一黨と通じてゐることを知つてゐて、それを種に宋を官憲の手を藉りて處分し、後日の患を除かうとゆうのだ。ここに至つて流石の宋もつひに意を決して妾を殺してしまふ。この劇はそれで終りになるが、妾の母がこれを官に訴へて宋は召捕られ江州に流されることになり、そこで潯陽樓に反詩を題したことから謀反の嫌疑を受けて獄に繫がれ、殺されようとするところを黑旋風李逵をはじめ梁山泊の豪傑連の救援を受けていよいよ梁山泊入りとなる（この後場面は「鬧江州」或は「潯陽樓」とゆう劇になつてゐる）

「烏龍院」は主役宋江の老生と、妾の花旦と共に重要な役であつて、花旦が達者でなければ見られない。この妾になる花旦は支那劇中有數の淫婦役である。最後に勘忍袋の緒を切るまでの宋江の忍從ぶりと、淫婦の手におへないフテクサレぶりが、よく描かれてをり、京劇屈指の名作となつてゐる。

「武松」「挑簾裁衣」

梁山泊第一の豪傑武松を主人公とする劇は從來「武松打虎」（虎退治）「戲叔」（武松の兄の妻潘金蓮が武松に挑む物語）「獅子樓」（潘金蓮が西門慶と私通して夫たる武松の兄を殺したので、武松は西門慶と潘金蓮を殺して兄の仇を討つ）その他色々あるが、近來の傾向としては、「武松」と題してそれらを通して演るのと「挑簾裁衣」と題して「戲叔」から「獅子樓」までの經緯を細かく演じ、特に潘金蓮と西門慶との結合描寫に重點を置いたのと兩種のものが多く行はれてゐる。前者の場合は主役を武松とするもので立廻りの達者な俳優李萬春が、これを創始した。後者は潘金蓮を主役とし毒婦型の名優筱翠花が創始してゐる。然し後者の場合も、武松はやはり重要な役である。

武松は山東人ではないが山東の陽穀縣で捕賌都頭とゆう役人を勤めてゐた時に、兄の武大が此地で商賣をしてゐたので兄の家に同居してゐるうちに、この事件が起つたものであるし、結局彼もかうした事件から梁山泊入りをするやうになつたのであるから、これらの劇は山東を背景とするものとゆうことになる。

これらの劇の觀どころは武松のキビキビした豪勇ぶりとその立廻り、及び潘金蓮の妖艷な毒婦ぶりに在る。潘金蓮は前掲「烏龍院」の閻惜姣及び「翠屛山」の潘巧雲と共に水滸傳の三大淫婦と言はれ、京劇花旦の重要な一役となつてゐる。また西門慶は金瓶梅とゆう小說では單なる好色漢となつてゐるが、この劇の最後、武松に殺される時には、武松を相手に猛烈な立廻りをやるところを見ると、相當な腕力家である。

「英雄會」

清朝時代を背景とした劍俠小說「彭公案」は三河縣知縣彭朋（彭公）を助けて綠林の徒と抗爭する豪傑連の物語であるが、それに取材した劇も色々ある。「英雄會」はその一で、彭公に味方する飛鏢黃三太（天覇の父）とそれに對抗する山東の大盜竇爾墩とが、德州（今の德縣）で雌雄を決すべく、大試合を行ひ、老雄黃三太は能く少壯の竇爾墩を打ち敗かしたといふ筋。これは文字通りの武劇であつて、武生（黃）と花臉（竇）の立廻りを見るのが目的である。

（筆者は華北交通資業局參與）

水托城

——濟南附近の傳說——

直江廣治

水托城

土地の人は濟南城を一に水托城と呼んでゐる。それにはこんな言ひ傳へがある。ずつと昔のこと、或る晩一天俄にかき曇り、急に大風が吹き出して砂塵を捲き上げ、自分の掌さへ見えない位であつた。人々は非常に懼れて、皆家に閉ぢこもつて息をこらしてゐた。

暫くすると天地を震動させるやうな怪音がしたので、人々は愈〻天地壞滅の時と膽を潰した。ところが中に大膽な者がゐて「戸の隙間からそつと窺いて見ると、一人の仙姑が雲の端に坐つて、あたかも舞ふが如く手足を動かしてゐるのが目に付いた。すると忽ち一隻の金船が、空中から水面に落ちて來た、と見る間に、續いて巨大な城が落ちて來てその上にかぶさつた。

人々は始めて仙姑の法術であることを知つて、香を焚き跪いて禮拜した。間も無く、仙姑は風に乘つて何處ともなく立ち去つた。濟南城はこんなわけで、水上の船に載つてゐるので水托城とも呼ぶのださうである。（談者、濟南大明湖、王老太々）

濟南城と撅山

濟南縣城の北一支里ばかりのところに撅山と言ふ山がある。傳へるところによると、濟南城の金船のとも綱を、此の山に繋いでゐるさうで、若しも撅山一度失すれば、濟南城は船と共に海に流されてしまふのださうである。（談者、大明湖の水手、楊在界）

濟南城の金船

—南蠻子採寶譚一

濟南城は金の船の上に載つてゐるがいつのことであるか、南蠻子が慧眼にもこの寶の事を嗅ぎ付けてこれを手に入れようと計つた。ただ此の寶を引き出すには特別な鑰匙（かぎ）が必要であつた。

南蠻子は毎日のやうに、あちこち捜し廻つてゐたが、偶〻或る染房（染物屋）で使つてゐる缸を搔き廻す棒を見て、これこそ求めてゐる鑰匙であると心の中で非常に喜んだ。そしてこれで譲つて下さいと多額の金を差出した。

染房の主人は大喜びで承知したが、唯染房の小僧だけは、何か理由があるに違ひないと疑つて、密かに南蠻子の跡をつけて行つた。

眞夜中近く、南蠻子は城の北門に至つて、例の棒を一振りする、と忽ち城門が開いた、と見ると、そこには一隻の船がある。周圍は滿々たる水である南蠻子はひらりと船に飛び乘り、棒を棹にして正に船を漕ぎ出さうとした。船が城を出てしまへば、城は海中に沒し去り、城中の人は魚腹に葬られてしまふ、染房の小僧は思はず、驚きのあまり大聲をあげた。そのため南蠻子の術は破れて、水中に陷つて溺死し、船はさつと元の位置に還つてしまつた。それで寶の金船は今でも濟南城の下にあるといふことである。（談者、濟南大明湖、張老者　六十二歲）

註　南蠻子といふのは、北方人が南方人を指して言ふ言葉で「南蠻子眼毒」（南蠻子は眼が鋭い）の語がある位で、普通の者には、ごくつまらない物にしか見えないのを、稀代の寶物と見抜く不思議な能力を持つてゐる。南蠻子が寶物を盜み去る話は、北支から滿洲にかけて數多く行はれてゐる。山西の南蠻子に就いては、十月號の拙稿に少し觸れて置いた。南方になると「識寶回回」の名で呼ばれてゐるが、これについては、石田幹之助氏に「西域の商胡、重價を以て寶物を求める話」及び「再び胡人採寶譚に就いて」といふ二研究があり、共に氏の最近の文集「長安の春」に收錄されてゐる。北方に流行するこの採寶譚と南方のそれとが、無關係であり得ないことは勿論であるが兩者を比較し、再検討するためにも更に廣く各地からの報告を我々は期待してゐる。各地の採寶譚は何れも少し宛その型を異にしてゐる。この同一でないところに實は我々の興味は懸けられてゐるのであつて、將來比較研究によつて、この話の原型を究め、更にそれが變化して現在に至つた過程も說明出來るものと我々は考へてゐる。

臥牛山の金牛

—南蠻子採寶譚二

濟南縣城の東北約十五支里のところに臥牛山といふ山がある。昔は金牛山と呼んでゐた。

その頃附近の農民が山へ放牧に行つて、連れて來た牛の群を數へて見ると

山から下りて數へると元通りになつてゐて多かつた一匹がどうなつてしまふのかどうしても分らない。

其後何處から嗅ぎ付けたのか南蠻子がやつて來て、山に一匹の金牛のゐる事を看破した。南蠻子は、山の麓を歩き廻り、或る農夫の作つてゐる燒瓜に目を付け、法外の値段で買ひ取り、百日たつたら摘みに來るから、それまで大事に育ててくれと何度も念を押して立ち去つた。農夫は瓜の時期も過ぎ去つたが、約束通り例の燒瓜を大切に育ててゐた。併しもう他の野菜を植ゑなくてはならない。農夫は面倒になつたので、遂に九十九日目に摘み取つてしまつた。

翌日滿百日目果して約束通りに南蠻子がやつて來た。農夫は濟まない事をしたと思つて、今朝摘みましたと嘘をついて誤魔化した。南蠻子は又々多額の金を與へて燒瓜を抱いて嬉しさうに金牛山に向つて行つた。

山では例の如く澤山の牛が草を喰つてゐた。それと見ると南蠻子は例の燒瓜を力の限り牛の群に投げ付けた。すると燒瓜はある牛に當り、その牛の角が一本ぽきりと折れた。見るとそれは金の角である。燒瓜がもし百日たつてゐれば金の牛をそつくり、とりこにすることが出來たのである。金牛は痛さに耐へかねて山の内へ逃げ込んで、再び出て來なくなつた。それで今でも山の中には角の一本無い金の牛がゐるさうである。そんな事があつてから山の名前も臥牛山と改められたと言ふことである。（談者、歷城縣冷水溝小學校長 謝星海、四十八歲）

鮑山坡の金豆

—南蠻子採寶譚三

歷城縣城の東南二支里許の所に鮑山といふ山がある。春秋時代の齊の大夫有名な鮑叔牙を此の山の北麓に分葬したのださうで、今でも鮑叔玟といふのが殘つてゐる。さてずつと昔のこと此の山の中に金童、玉女がゐて、金馬、銀馬を使つて金の豆子を碾いてゐた。

ところが或日南蠻子がやつて來て、この稀代の寶のことを看拔いて、盜み去る計畫をめぐらした。山の洞門は堅く閉ざされ、ただ北方の岳山といふ山に生えてゐる棗の樹の東南に向いてゐる一枝を鑰匙とすれば開ける事が出來るのであつた。南蠻子はこれを尋ねあてて、持主に交渉して、重價を以て購ひ、これで鑰匙を作つた。

ある晩南蠻子は、この鑰匙を携へて洞門に向つた。

土地の農夫が一人分け前に與るといふ約束て手傳ひに隨いて行く事になつた。まんまと洞門を開けて内に入つて見ると、美しい童男、童女が豆を碾いてゐる。農夫は何の氣なしに豆を一握りポケツトにさし込んだ。南蠻子は美女と馬を連れ出さうとしたが、農夫も急に自分のものにしたくなつたので、二人で喧嘩を始めた。爭ひながら何時の間にか洞門を出てしまふと、急に門が閉ぢてしまつた。二人は驚いて爭ひを止めたが、氣が付いて見ると、例の鑰匙は洞內に置いて來てしまつてゐたもう再び洞門を開けるべき術も無い。南蠻子は口惜しがりながら立去つた。農夫は家に歸つてポケツトから例の豆を取り出して見ると、それは金の豆であつた。（談者、同前、謝星海、四十八歲）

註、他の地方で採集された採寶譚では南蠻子が寶盜みに成功してゐる筋のものが多いのであるが、濟南附近のものが三話とも失敗に終つてゐる點は、比較研究上興味ある點である。

還鄉店の由來

還鄉店といふのは、濟南縣城の東北八支里許の所にある小さな村である。この妙な村名の由來としてこんな話が傳へられてゐる。

昔此の村の或る農夫が臥牛山の麓へ

いつものやうに牛を連れて耕作に行つた。天氣は良いし、疲れたので、一休みしてゐると、その時山の樹の下で話し聲がするので、行つて見ると、二人の老人が將棋をしてゐる。二人は駒を動かしながら、桃を喰べてゐる。農夫は傍に立つて見てゐたが、暫くして、のどが渇いたので、桃の喰べ殘りを拾つて渇を癒した。やがて將棋も一勝負終つたので、農夫は仕事を想ひ出して山を下つて、畠に來て見ると驚いた事に周圍の樣子がすつかり變つてゐる。牛もゐなければ、農具も無い。あわてて村に歸つて見ると、村人は皆な識らない人ばかりである。一寸の間と思つたのが實は千年も月日が經つてゐたのである。この事があつてから村の名前を還鄕店と呼ぶやうになつたといふことである。（談者、同前）

註、此の傳說は我々にかの浦島子の話を思ひ起させる。併し私は今その異同を論ずる積りは毛頭ない。

問題の重點の一つは、仙人と同じ物を食べたといふ點にあるやうだ。神と同じ物、神に捧げられた物を食べるといふ事は神と同じになるといふ事である。狐、虎等の異類が美女の姿を假りて、人界の福分ある男を訪れるうち、人間の食物を食べたがため永く人界に止り、優れた子孫を此の世に留めたと傳へる中國の民譚を私は數多く採集してゐる。此の共食の信仰は極めて古い起源を持つものと考へられる。

山西省虞鄕の棋盤山に沿つた麓の梛村といふ村でも同じ話が語り傳へられてゐた。昔は村の名を羅村と云つたさうだが、その頃一人の樵夫が山で二人の老人が將棋をしてゐるのに出遇つた。以下全く同樣の筋で、歸つて來て村の樣子がすつかり變つてゐるので、梛村（自分の村は何處に移つたのだらう）と云つた事から村名を梛村と稱するやうになつたさうである。その樵夫は後に山に入つて神仙になつたと云はれてゐる。

山東と山西此の全くかけ離れた處に、何故かくまで同じ話が殘つてゐるのであらうか。これを明かにする事は決して小さな問題ではないと私などは考へてゐる。

五龍潭

濟南縣城の西關に五龍潭と呼ぶ海眼があり、古來その中に龍が住んでゐると言はれてゐた。清朝光緒年間の事、大旱が續いて、農作物が正に枯死せんとした事があつた。此の時張龍といふ男が水泳の達者なところから、虎骨を抱いて潭中に躍り込んだ。「龍虎相鬪へば必ず雨降る」といふ言ひ傳へに基いたものである。ところが、間も無く一天俄にかき曇り、沛然として雨が降り數日間續いた。かくて百姓は始めて蘇生の思ひをした。其後小旱ある毎に、必ず虎骨を五龍潭に投ずる事にしてゐるが、奇妙に必ず雨が降るさうである。（談者、濟南城內、王天祐）

註、その底が海に通ずると考へられる特殊な井、沼、池の類を海眼と呼んでゐる。北京の哈達門外鎭海寺などにも惡い老龜を閉ぢ込めたといふ海眼がある。

雨乞ひの方法は各地千差萬別であるが此の濟南の求雨なども變つたものの一つである。此の話などは實際に行はれてゐる求雨を說明する爲に作られた傳說と見るべきであらう。

佛大人と蛟龍　一

清朝康熙年間、時の山東巡撫佛倫は羅漢の轉生と言はれ、佛法に通じ、その臣王大胆と數多くの善事をなしたと傳へられてゐる。

當時濟南縣城南門內の順皇廟の中に一つの池があつた。黃泉に通じてゐると云はれ、雌雄の蛟龍が住んでゐた。この二龍は時に出ては惡事を働くので佛大人は或日のこと、王大胆を連れて順皇廟に至り、雌雄の寶劍と三つの道符を王大胆に預けて「自分は池に入つて蛟龍と鬪ふから、もし第一回目に自分が水面に手を出したら雌劍を手渡し符を一つ焚いて呉れ。池の水の色が變つたら再び符を焚け。二回目に手を出したら雄劍を渡して再び符を焚いてくれ」と命じて池に跳び込んだ。

間も無く池の中から大きな毛むくじやらの手が出て來たので、王大胆は雌劍を渡して符を焚いた。暫くすると、水の色が變つたので、大胆は雌蛟が已に死んだ事を知つて符を焚いた。やがて大きな水音がして、さつと光が眼を射たと思ふと、大きな金の手が水面ににによきつと現れた。大胆は餘りの事にびつくりして、そのまま膽を潰して死んでしまつた。

佛大人は雄蛟を斬る事が出來ず止むなく池の中に嚴重に鎖で繫いで置く事にした。（談者、城內商人、魏賢君）

佛大人と蛟龍　二

蛟龍は大人のために鎖で繫がれる時「羅漢、何時になつたら許して戴けますか」と尋ねた。佛大人は「鐵樹花咲く時はお前を放してやる」と答へた。

其後某巡撫が順皇廟に參拜に來た事があるが、天氣が良い日であつたので載せてゐた紅纓帽を脫いで、池の傍の鐵棒の上にのせた。すると忽ち底の方

から物凄い音がして、池の水が湧き上り、水がどん／＼溢れ出した。巡撫を始めお供の者はあわてて逃げ出した。

ただお供の中に佛大人が蛟龍を鎖で繋いだ事情を詳しく知つてゐる者が一人ゐて、きつとこれは紅纓帽のせゐに違ひないと思つて、急いで帽子を取り下ろした。すると不思議と水はぴつたり鎮まつて、全城の人々は危く魚腹に葬られる事から免れる事が出來た。

（談者、同前、魏賓君）

註、これと全く同じ筋の話が、遙かに離れた四川の灌縣に傳へられてゐる。四川では佛倫が二郎神に代つてゐるだけで話の重な筋、特に「鐵樹花咲く時云々」の條まで同樣である。

濟南の佛倫なる人物が後から附け加へられた要素である事は、この事からだけでも證明出來よう。

傳說の歷史化は常に試みられるところであり、濟南のこの傳說を康熙時代佛倫の時に作られたとしなければならない理由は少しも無いのである。水神としての二郎神の信仰は佛倫時代よりも、もつともつと古くから常民の間に生きて來てゐるのである。四川のものに就いては、黃芝崗氏の「中國的水神」に詳しく論じてあるが、此の筋の話は江西、湖南、長沙にも連り、更に筆者も華北に於て若干採集してゐる。

廣い分布を持つこの水神の問題は一寸見當もつかない位奧行が深い。他日改めて論ずる事にして、ここでは濟南のものを紹介するに止める。

道具を貸す王靈官の墓

王靈官は王常と云つて、漢朝西蜀の人である。張道陵に從つて道を修め、多くの靈驗を現してゐる。その墓は歷城縣公署の北にあり、今でも病氣の者がお詣りすると大變御利益があるさうである。

ずつと以前のこと、此の附近の住民は婚禮とか葬式とかの起つた場合には王靈官の墓前に行つて香を焚いて禮拜し、木器、磁器その他必要な家財道具の數を言つて、貸して下さいとお祈りした。翌朝行つて見ると、必ずきつちり數の如く品物が墓前に揃つてゐた。律義だつた昔の人達は用が濟むと必ず夕方元通りそれ等を返してゐたが、其後心の良くない者が出て、借りつ放しで返さない事があつた。それ以來幾らお祈りしても、もう道具は出て來なくなつたさうである。（談者、歷城縣冷水溝小學校長、謝星海、四十八歲）

註、これも可成り廣く分布してゐる話で、北京の近くでも私は良く聞いたし、順義縣の田舍でも四つばかり採集した。欒城縣浪頭村、獲鹿縣の海上嶺でも略同じ型の話が傳へられてゐる。ただここでは胡仙の住む洞となつてゐる。林蘭の「民間傳說」下卷にも「客嘴人借碗」といふ題で孫佳訊氏が江蘇省雲臺のものを報告してゐる。江蘇省東海縣錦屛山の近く小姐洞といふ所にも同樣の話が傳つてゐると、孫氏は附記してゐる。

この型の傳說は、日本の「椀貸傳說」と極めて類似してゐる。椀貸傳說は日本でも仲々議論の多い傳說で部落で共同に購入した家具の使用の傳說化と說く者もあり、或ひは無言貿易の傳說化と主張する者もあり、或ひは所謂木地屋と住民の間に起つた傳說と述べる者もあり、又は舊家が實際に膳椀を貸した事があつたのだとの說をなす者もある。併し隣國たる中國にも此の傳說が廣く分布してゐる以上、內地の「椀貸傳說」ももう一度比較檢討して見る必要があるやうだ。此の兄弟の國の民俗を比較するためにも、我々は先づ此の國の民俗を整理し、系統づけなければならない。

（附記、同好の滿鐵北支經濟調査部の山本斌氏から濟南附近の傳說、農諺、童謠等の整理を頼まれ、喜んでお引受けはしたものの、もう大分になる。ここに傳說の一部を飜譯し、蛇足の註を加へて見た。採集の勞は山本氏にあることを附記して置く。）（筆者・北京輔仁大學講師）

山東民謡覺書

（華北交通社員會叢書「黄土の聲」より）

藤澤由藏

北支――特に山東の民謡に興味を持ち出してからもう六年近くにもなる。

民謡といふても、私の云ふ民謡は、どちらかと云へばあんまり人々にちやほやされないゴツ〱の生地のまゝの本當の意味の土の唄であつて、これが何んとなく親しみの持てるといふのには、思ひ上つた衒氣がなくて、粗野ではあるけれども眞實味があり、素直なところがあつて、その性格を少しも飾るところがなく、而も極めて、まじめで生き〱としてゐるからであらうと思ふ。

或る人がこの土の唄聲をたとへて云へば、炭火の上に乘せた藥罐のうなりのやうなものだと云つた。成程、藥罐のうなり聲は炭火を加減しないかぎり煮沸してゐる限り、叩かうがどうしようが鳴りをひそめない。しかも鳴つてゐるのはたしかだが、どこで鳴つてゐるかわからない。その代り炭火をとつ

に鳴りをひそめてしまふ。つまりこの土謠は藥罐のうなりと同じやうに、一般民衆の時代世相に對する生活の聲であるわけだ。

由來、この生活の聲だけは、どんなに支那歴代の爲政者が彈壓し、抹殺しようとしても、炭火と藥罐の原理にしたがつてどうすることも出來なかつたのだ。軍閥の壓制が行はれると、必ずそこには軍閥咒詛の聲が生れ、政治的な誅求が行はれると、又必ずそこには反官怨嗟の土の聲が現はれて來る。而もその土の聲は一體誰の聲であるのかその主がない。炭火の上の藥罐の何處が鳴り出したのかわからないのと同樣に、盛んに鳴つてゐるといふことは、確かな事だが、その聲の發生する場所がわからないのである。唯、漠然として、土民の聲であるに過ぎないのである。

このところが、この土の唄の强味で

とを知らない自然の聲であり、時には高位顯官はおろか軍閥巨頭にも、さらに帝王權力にむかつてすらも遠慮するところなく、糞味噌にくつてかゝらうとする、いはゞ無形の鞭である。

往年、山東省も張宗昌の壓制が甚だしかつた頃、彼を罵倒して唄つたのに

張宗昌！	
お前が山東に	張宗昌、在山東
居るならば、	
ところきらはず	遍地土匪鬧轟轟
土匪だらけ。	人民請求他不管
百姓の嘆願（ねがひ）は	光管暴斂與橫征
きゝもせず	
無茶な税金	
とるばかり！	（山東省陵縣地方）

といふのがある。

こゝには、張宗昌と、はつきり云ひきつてゐる。權勢を恐れて齒に衣をきせた樣な、ものゝ云ひ方は決してしてゐないのである。あくまでも野性的で素朴な言葉のなかで正直に物事を見てゐるのには驚かされる。

張宗昌が、やうやく暴政の馬脚をあらはし始め、敗戰によつて軍隊裝備が惡くなると、すかさず

張宗昌の態（ざま）を見ろ	
ぼろ靴下に	
軍服やぶれて	張宗昌、不吃香
ばら〱だ！	
肩章も無ければ	破襪子破鞋破軍裝
襟章もない、	少肩牌、無領章
革命軍の銃先に	怎能擋住
何んで堪へよう	革命軍的槍！
堪へられよう！	（山東省魚台縣地方）

等と、あくたい口を叩くことにも遠慮をしてゐない。

こんな譯で昔から土の聲は、非常な暴君であつて、眞實を覆ひかくさうとする何物をも認めない。だから近頃の支那學者達が、記述の實證的引例として、好んでこの民謡をもち出して推論の效果を計らうとするのは、確かにこの民謡の持つてゐる獨特な眞實性と迫眞力をかつてゐるためであらうと思はれる。

いかにも、このことは、史實の上にもあきらかに殘されてゐる。つまり、古代支那のある時代に善政をほどこして民心を收攬した賢明な帝王の幾人かは、はやくからこの事實に氣付き、施政資料としての民風をみることに注意を怠らなかつたと云ふことが出來る。

禮記の王制篇には

「天子は五年に一度巡守し、太師に命

とあり、この太師といふのは周官篇の註釋によれば、周の三公の一つで大臣格の樂を司る大官であつたらしい。又これを裏書するものとして、漢書の藝文志食貨志の項には

「采詩の官ありて、各地の詩を採集し、これを太師に献じ、太師これを帝に奏聞せり」等とある。

又、山東省の曲阜縣を故地とする孔子一門によつて選出編纂されたところの詩經の三百五篇なども、その主要部分は、ひとしく當時の民衆生活を反映した赤裸々な民謠に過ぎないものであつた。たゞ後代の漢宋及びそれ以後になつて、帝王權力に阿諛する御用儒者達が、ほんの幇間的役割を買つて出て御叮嚀にも、これに勿體をつけた訓話的色調で註釋をつけ、ます〳〵むづかしいものとして、本來の民謠の生地を失つてしまつたものだ。詩經こそは、實に我が山東農民達の祖先が誰に氣がねするところなく、自由奔放に唄つたところの有りのまゝの生活歌の外、何物でもなかつたのである。

それ故に、この時代の民衆層は遠く詩人から遊離し、民衆は民衆自身の中に生れた土の詩を、後生大事に守り育てゝ來た。これは時代の批判となり、權門への鞭となり、世相への忿懣となつて、生々しい感覺の漾ふ野生の詩であつた。この野性の詩とは、とりも直さず土に根ざし、汗に育ち、積鬱する苦惱の中に反撥しようとする強い意慾を示した土の唄であらう。これらの唄は恐らく御用詩人共が跋扈しだして以來のどの時代の詩選や詩篇にも蒐錄されてゐないであらう。

けれども、その生命は脈々として土の中に脈搏ち、無限の變化を經ながら時代意識の伏流となつて民衆と共に息づいてゐるのである。つまり土謠が常に生きてゐる所以であり、これあるばかりに何物にも妥協しない深い眞實味と、強い迫眞力がある譯でもあらう。

それ故に、中國に於ける民謠はその八割近くまでが、何れも怨嗟であつたり憤懣の聲であつたり又時勢や世相に向ける要望と批判の聲であるわけだ。

土民層の不平や不滿が訴へられる場合に政治と云ふ得體の知れない仲介物を挾んで農民と軍閥巨頭との間ではある間隔がおかれる。それは鄉間の百姓と省城とか首都とかに君臨する政權者との地理的間隔の樣なものであらう。

かう云ふ場合には土民の聲も、決して弱々しいのではないが咏嘆風で柔味がある。これに反して、軍閥の手先きとして、鄉間に入り込み、直接農民達の耳目に觸れる軍閥駐屯私兵の行動に對しては、その反感は、より直接的で荒々しい。

百姓いぢめの　村泣かせ
おいら百姓は　手前等喰はせて
何んになる
土地は土匪の巣　何故打たぬ
打てるものかよ　鐵砲彈持つて
土匪のお宿へ　お百度詣り
誰かやつつけろ　腰拔け官兵
おいらも行つて　手傳つて
がんじ搦めて　火焙りしてやれ

吃老農、喝老農
老農養你嘎使用
遍地土匪你不打
倒把子彈送賊營
誰殺官兵我幇助
纏吧纏吧點天燈

（山東省東平縣地方）

物持ち金出せ
中(ちゅう)の暮しにや　手はつけぬ
貧乏人！　早く來い
おいらの山寨(やま)で　年を越せ

上等人倆該我錢
中等人們莫管閒
下等人民快來罷
跟我上山來過年

（山東省安邱縣地方）

（筆者・華北交通濟南鐵路局調査科）

東城記（四）

加藤新吉

北京から東京への途次、一夜を奈良に寢た。奈良の宿は、春日の鳥居の傍の菊水と二十年來きめてきたが、近來旅館を廢業して時局向の仕事の事務所になつたと聞いてがつかりした。千年の古都にも時の風が吹いてゐる。

宿は飛鳥園主人小川氏に探して貰つてやつととれた。猿澤の池の畔、坐つてゐて興福寺の塔が見えた。曾て石本憲治兄は御蓋山の麓に泊つて、奈良辯をまねた奈良禮讚を遙に倫敦の客舍に寄せた。それから十三年、彼逝いて七年になる。寅三、已四雄、五雄—彼の弟達も亦この七年の間に彼の後を追つた。その麓の宿は滿員で斷られた。

朝、新藥師寺へ出かけた。今度は他は見ないつもりだから、悠り高畑の緩い坂町を歩いた。が、十月の暖い陽ですつかり汗になつた。

新藥師寺はこの前來た時までもの靜

の強さうな和尚さんに變つてゐた。併し、些か勝手の違つた感じであつた。話してゐる間に、この和尚さん一風變つた面白い人柄であることが判つた。

本尊の弘仁佛は何度拜んでも、その太い眼玉やずんぐりの軀が妙に氣になる佛樣である。

本尊の前に立たれたらお辭儀ぐらゐされてはどうですか

たまたま一緒になつた二人の若き女性が、和尚さんにたしなめられて吃驚して頭を下げた。この女性達も眼玉に氣をとられて頭を下げるのを忘れたかと思ふと、をかしくもあり氣の毒でもあつた。

何時みてもめでたきは十二神將。鎌倉時代に庫裡として建てられたといふ今の金堂の屋根裏の木組も、みてゐて實によい氣持のものであつた。香藥師の美しく愛すべきは今更いふまでもない。

庫裡の縁にかけて暫し和尚さんと話をした。奈良の建築、彫刻、繪畫、庭園など。庭に竹柏（なぎ）がある。鹿兒島神宮にある竹柏の大木はもつと葉が長いことを話したら、竹柏は銀杏と同じく雌雄異木、葉も從つて違ふのだと、和尚さんに敎へられた。

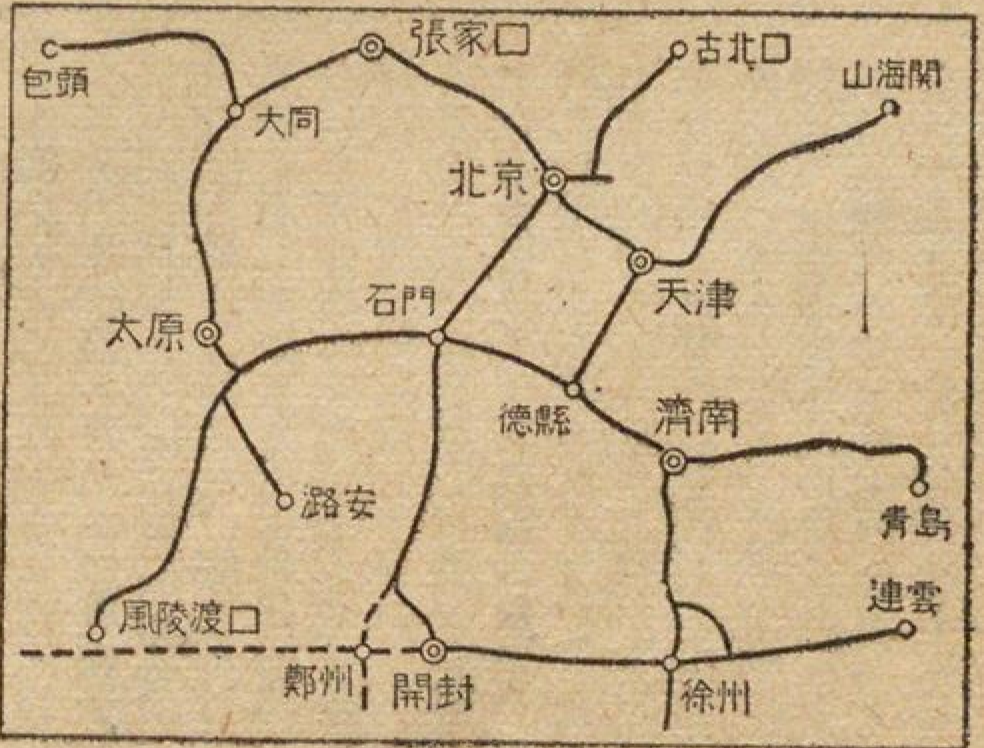
徑を歩いた。維新まで春日の神官達の屋敷跡、壞れた築地がありし日の社家の町の名殘を留めてゐる。あとは、薄の原、尾花の波が杜に續いてゐる。杜の上に御蓋山、西の空の果に生駒山、蟲の音、鹿の聲、さういつたところ。奈良七重の華やかさはないが、それにも拘らずしみじみと昔を思はせる環境である。

志賀直哉氏が久しく住んでいられたといふ家がこゝにある。私は志賀さんの長身を、日本人として最も美しい顏を、その家の前にひろがる尾花の波のなかに描いてみた。

東京に着いたら、志賀さんの新しい隨筆集、扉に宛名と自署とのある「早春」が待つてゐた。奈良に關する記述が隨所にある。知人の名も數々出てくる。座右寶の後藤眞太郎氏。民藝の柳宗悅氏。豐中の沖原氏には、著者と同じく後藤氏の案内で陶磁を見せて貰つた。五條坂の河合氏には、私も、「田舍造りの爐ばたで奥さんのおてまいでお茶を御馳走になつた」經驗がある。

滯京中、私は毎夜早春を讀んだ。繰返し讀んだ。何時になつたらかういふ天衣無縫の文章が書けるだらうかと考へた。

（筆者・華北交通資業局長）



昭和十七年十一月十五日印刷納本
昭和十七年十二月一日發行

十二月號
（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者（東東）（一〇四）　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　古川一郎
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替　東京六四二二三番　一四一五番
電話九段（33）三三四四番

會員登錄番號　一一六五〇八番

一册定價㊕三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社

かな尼さんが居られたが、今度は氣象

高畑の町の裏、春日の杜との間の小

禁無斷轉載・檢閲濟

武田發賣品

胃腸に

ビタミンB_1の不足は…

胃及び腸の活動力を低下せしめ、各筋肉の無力狀態を來し、食慾不振、便秘の原因となる。

食慾不振となれば假令ビタミンB_1に富む食物を攝取しても、吸收が不良となり益々ビタミンB_1缺乏の度を高め、消化器管は疲勞のため各種の胃腸疾患を惹起す。

かゝる場合高單位のビタミンB_1の投與は先づ根本的に胃腸組織を賦活し、筋肉の緊張を調整してその過勞を恢復し、消化液の分泌を亢めて、食慾を旺盛ならしめ、榮養素の吸收を良好ならしめて所期の目的を達す。

【適應症】胃腸無力症、食慾不振、肺結核・肋膜炎時、妊・産・授乳時の榮養補給、各型脚氣、疲勞恢復等

V・B_1含有量 一錠中〇・五ミリグラム

☆一〇〇錠 三〇〇錠

強力

メタボリン錠

製造發賣元 株式會社 武田長兵衛商店 大阪市東區道修町

2(1)664